

# 羽黒平(1)遺跡

—主要地方道青森・浪岡線建設に係る埋蔵文化財発掘調査報告書—

平成7年度  
1996年3月

青森県教育委員会











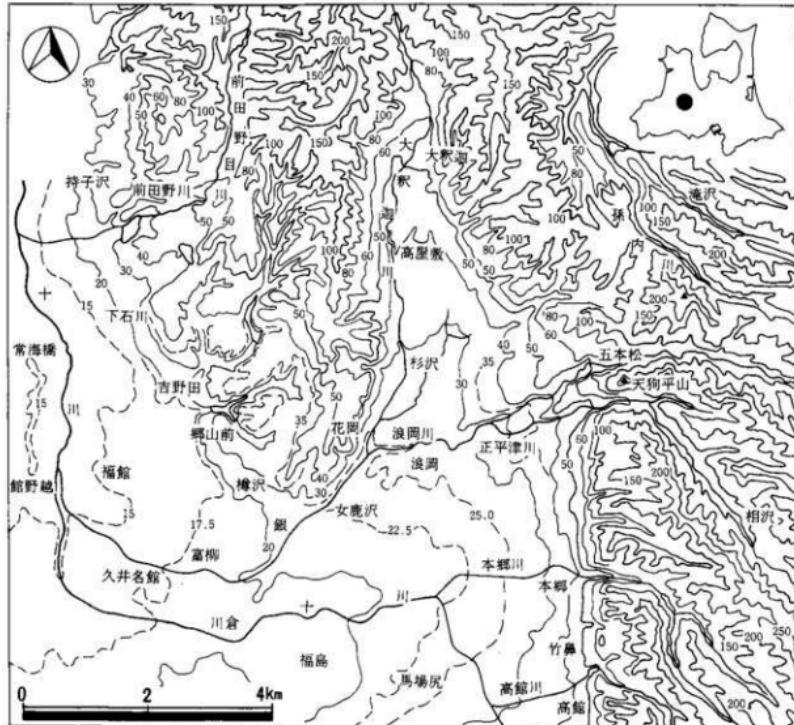






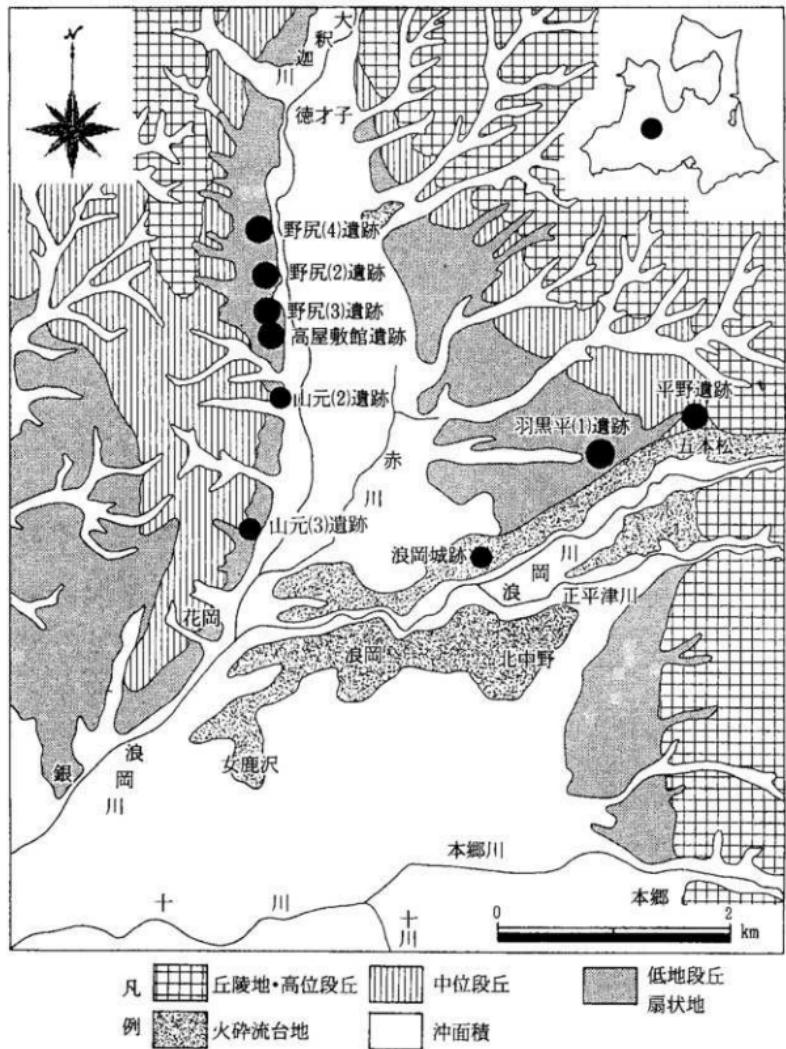






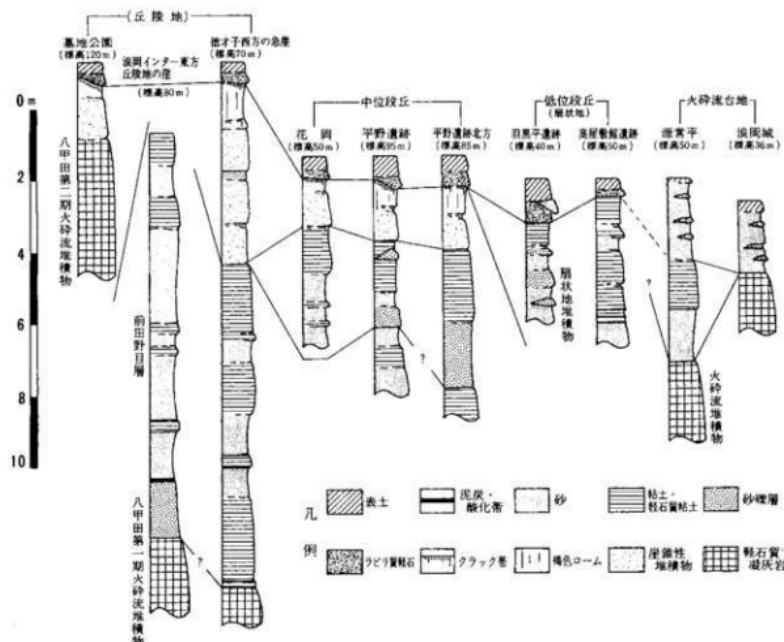
第1図　浪岡周辺の等高線図

いて標高30～50mの等高線はその間隔が広く平野部に向かう傾斜面としての要素をもち、浪岡川及び正平津川を中心とする扇状地の南半部に相当するものと考える。これに対して、北側では標高120～150mの等高線を境に等高線の粗密の度合い及び入り組みに変化が認められる。標高150m以上では等高線の間隔が密で入り組みが大きい。標高100～120mの等高線は浸食によって大きく入り組んでいるが頂部に平坦面が認められる。標高90～100mの等高線では丘陵地縁辺の緩傾斜面としての要素を読み取ることができ、開析の進んだ小丘地として北西方の大沢迦川に向かって点在する。標高30～60mの等高線はその間隔が広く扇状地の北半部にあたる。なお、標高120～150mの等高線の密集部は南北方向に走り、浪岡川～正平津川間の天狗平山(173.7m)西端を通って南側の本郷、竹鼻などが点在する標高50～60mの等高線のもつ方向性と連続する。これは津軽平野南縁部を通る黒石断層(村岡・長谷、1990)の北方への延長線であると考える。



第2図 浪岡周辺の地形分類図

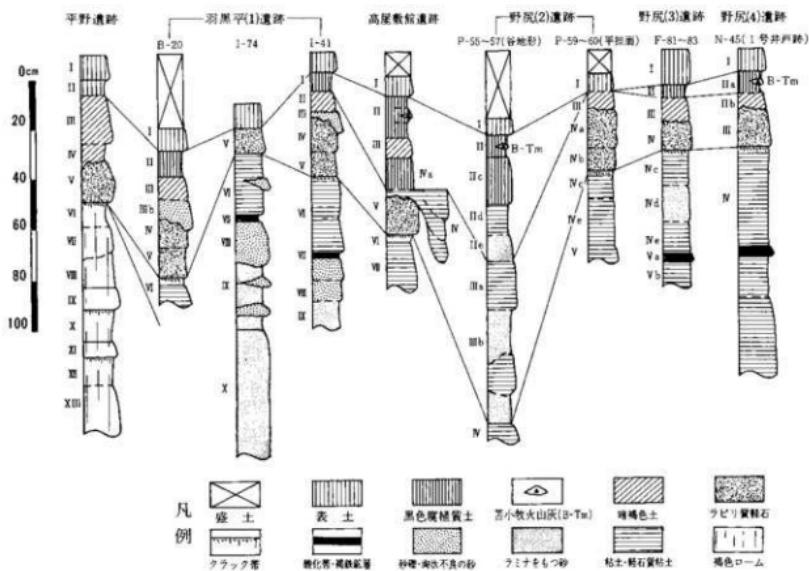
図2は浪岡周辺の地形分類図を、図3はその構成層を模式柱状図です。これによると、大积迦川以西では平野部に楔状に張り出す前田野目台地が特徴的である。この台地は上述したように3段の段丘からなる。高位段丘は標高80~150m程度で、砂及び粘土を主体とする前田野目層と、図の北側に主に分布する八甲田第1期火碎流堆積物からなる台地とによって構成され、平頂な丘陵地をなす。洞爺



第3図 浪岡周辺の火山灰等の層序を示す模式柱状図

火山灰を指標とする中位段丘は標高50~70m程で、南方に大きく舌状に張り出し頂部に平坦面をもつ。低位段丘へは西側が急傾斜面で東側が急崖で接する。そして、低位段丘面は標高30~60mで台地縁辺部に弧状に分布する。大沢迦川沿いでは標高40~60mと高度がやや高く、この川への傾斜面として南北に帯状に展開する。平野部側では標高30~50mと低く、開析谷の影響でやや起伏するが全体的に平野部への緩傾斜面として分布する。

これに対して、大沢迦川以東では浪岡川及び正平津川流域に展開する扇状地が特徴的である。五本松付近を扇頭部とし、北が大沢迦川沿いの徳才子、南が本郷付近を扇端部とする弧状の分布を示すが、大沢迦川、浪岡川及び正平津川によって大きく浸食される。この開析扇状地は構成層から判断して大沢迦川以西に分布する低位段丘に相当すると考える。また、開析された扇状地内には流下した火砕流堆積物による舌状台地も分布する。浪岡城跡を含めて浪岡町の中心街はこの火砕流台地上に立地する。火砕流は十和田火山起源の大不動浮石流凝灰岩(中川ほか、1972)に対比され、およそ25,000年前に津軽平野及び青森平野へと流下したものと考える。なお、大沢迦川東方における中位段丘は浪岡川以北の火山性丘陵地縁辺に断片的に点在する。段丘面の標高は90~100mであって平頂ながら平野部に向かってやや傾斜する。前田野目層を不整合に覆う段丘砂礫層の上位には褐色ロームが厚く堆積する。中位段丘の指標である洞爺火山灰については段丘構成層であるローム層最下部にて確認できなか



第4図 各遺跡内における土層の模柱状図

ったが、弘前及び青森周辺の中位段丘において確認している。

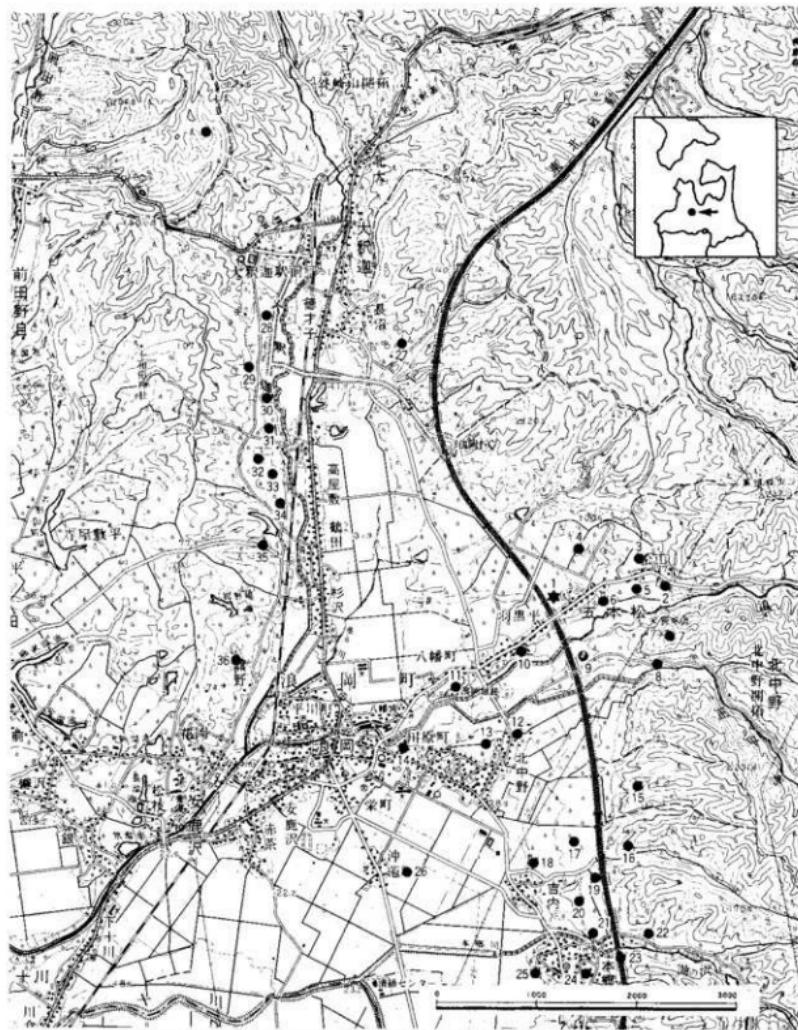
本遺跡は浪岡町の北東方約3Kmの羽黒平に立地する。調査区域は東西方向に約1kmと帶状に分布し、標高45~62mと約17mの高度差のある傾斜地である。調査区域は浪岡川流域の五本松付近を扇頂部とする、およそ20m/1000mの勾配をもつ開析扇状地をほぼ継続する。扇端部は大沢迦川流域に分布する沖積上位面に没すると思われ、末端部には2m弱の急斜面がみられる。背後の丘陵地及び中位段丘との境界部には比高約20~30mの急崖が存在する。この扇状地は浪岡川及び正平津川によって南北に分断されるが、面全体としては浸食による起伏量も少なく平野部への傾斜面である。扇状地面を流れる小谷は急崖の側壁を有するが全体としては谷底が浅く流域の幅が広い。J-220グリッド付近で検出された埋もれた谷地形は、かつて扇状地面を網目状に流れていた小谷の一つと思われ、基本層序第II層及び第III層にみられる層相から判断してその後の面上を氾濫する流水によって埋積したものと考える。なお、谷地形内の覆土中には白頭山起源の苔木火山灰(B-Tm)の薄層が確認された。調査区域中央部の北縁には小板橋溜池があって扇状地面を流れる小谷内に築堤して堰き止めたものである。この谷の支流が調査区域100ライン付近に達する。

火碎流堆積物からなる舌状の台地もまた、ほぼ五本松付近から浪岡川流域沿いに分布し、大沢迦川を閉塞するように伸びる。火碎流台地からなる源常平から浪岡城跡にかけての勾配はおよそ10m/1000mで開析扇状地よりもかなり緩い傾斜面である。五本松付近では扇状地と火碎流台地がほぼ同じ高度を有するものと思われ、浪岡川及び正平津川流域沿いの開析扇状地面を火碎流堆積物で被覆しな









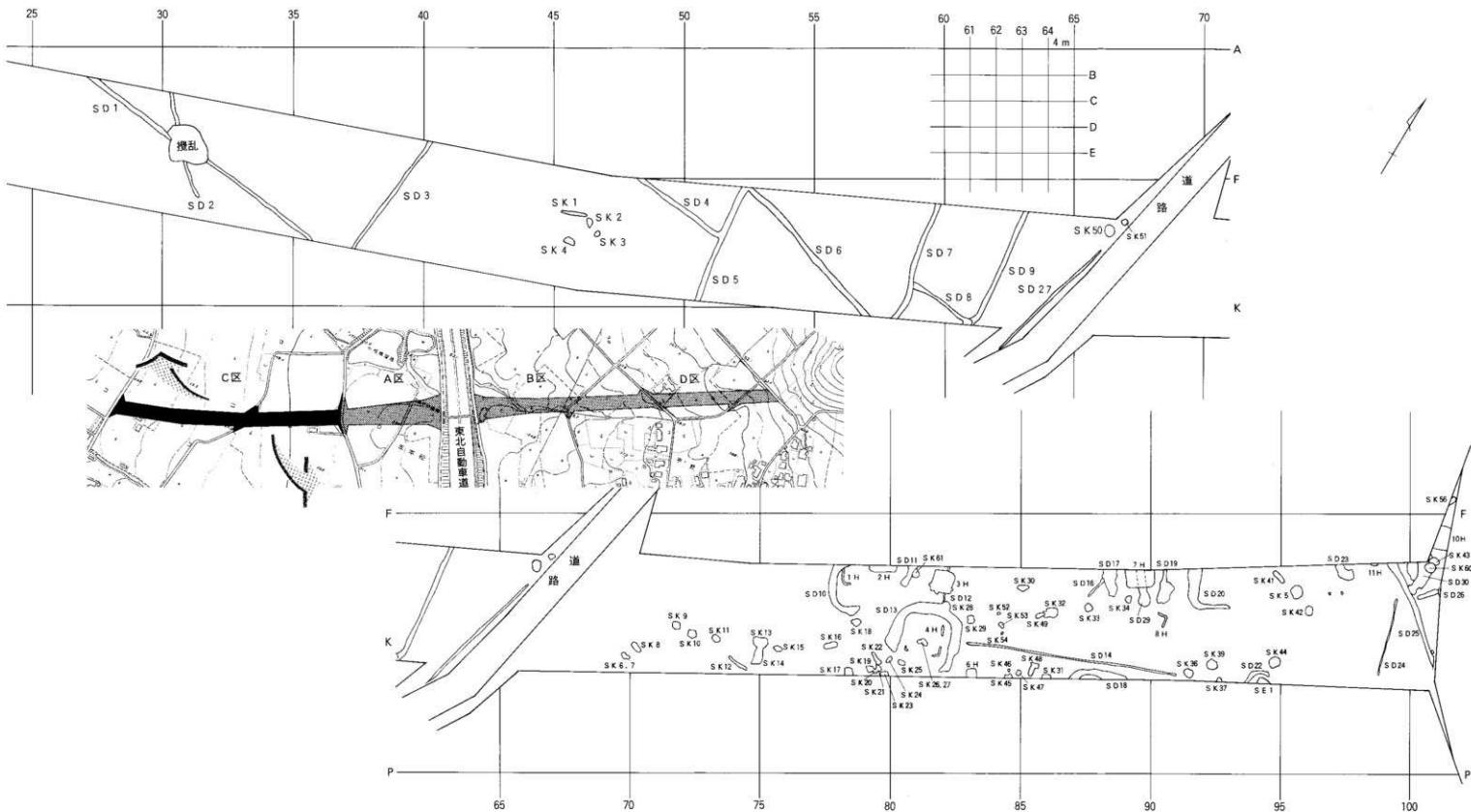
- 1 羽黒平(1) 2 松山 3 平野 4 羽黒平(2) 5 松山寺 6 羽黒平(3) 7 天狗平  
 8 春日社 9 常平 10 加茂神社 11 浪岡城跡 12 浪岡崎(2) 13 浪岡崎(1)  
 14 川原館 15 王田館 16 余魚沢(3) 17 梶里 18 北皇館 19 桜の沢 20 吉内  
 21 中屋敷 22 田の沢 23 松元 24 本郷八幡宮 25 本郷 26 沖林 27 大堤沢  
 28 山本 29 野尻(1) 30 野尻(4) 31 野尻(2) 32 野尻(3) 33 高屋敷館 34 山本(1)  
 35 山本(2) 36 山本(3)

第5図 周辺の遺跡

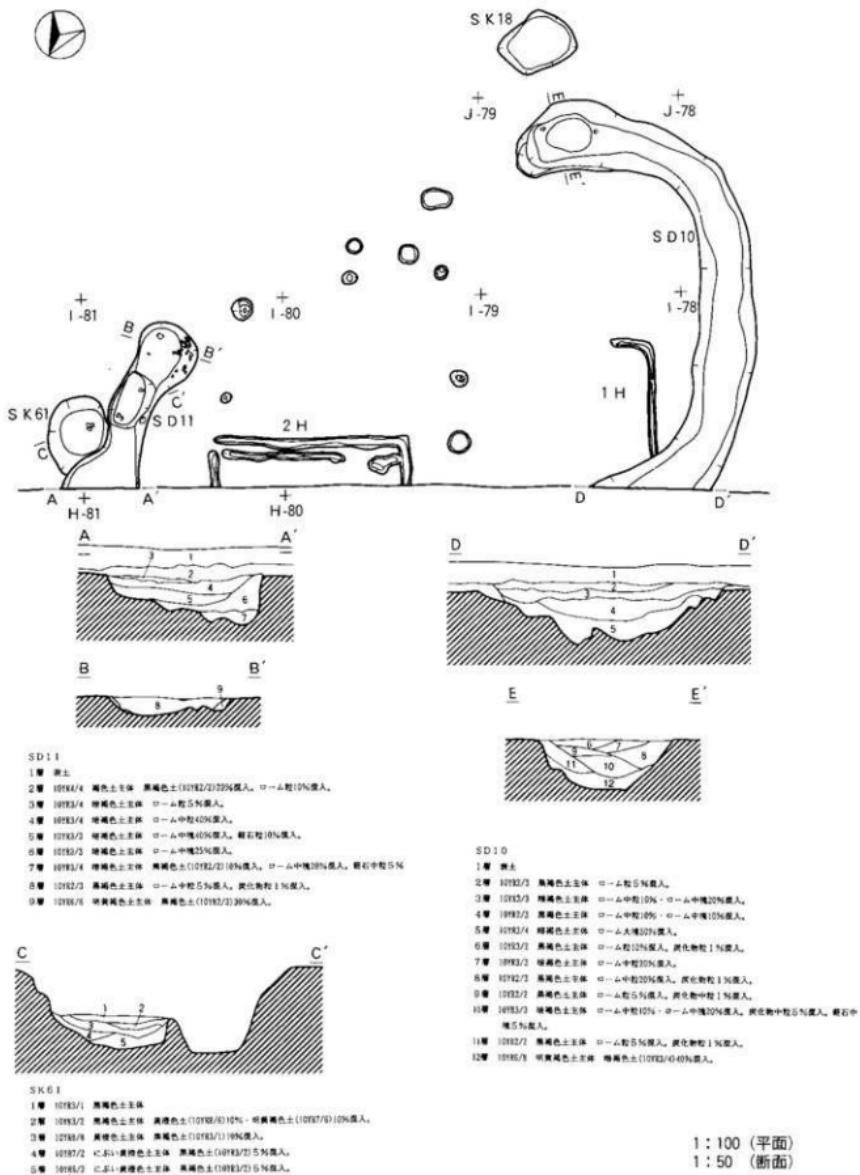


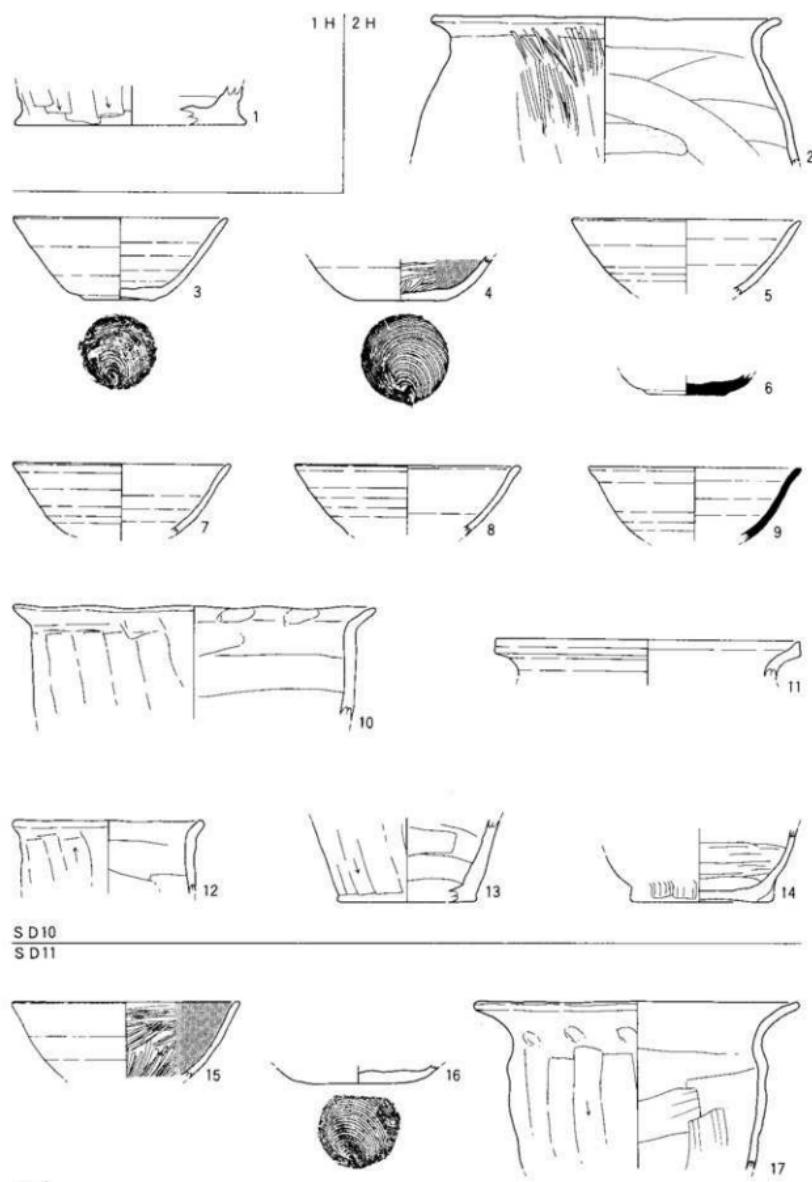






第6図 C区遺構配置図





1 : 3

第8図 C区第1、2号住居跡及び関連遺構 (S D10. 11 SK61) 出土遺物(1)

## 第2号住居跡（関連遺構SD10、11、SK61）

【位置】 H-79グリッド付近において確認されている。

【平面形・規模】 住居跡の大半が調査区外であるため全貌は不詳であるが、東西約4mを測る。一辺4m程度の方形であったものと思われる。主軸方向はS-29度-Eである。

【壁・床面・周溝】 検出されている範囲内においてみると、ほぼ全周に周溝が巡っていたものと推測される。南壁側の周溝が二重になっていることから、拡張された住居跡であった可能性がある。

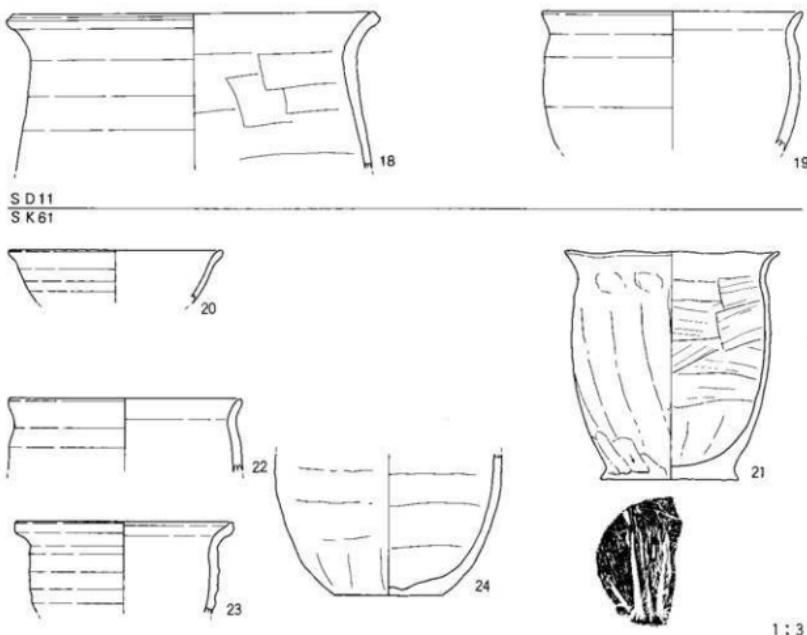
【カマド】 削平されたものと思われる。住居内の内側の周溝が一部とされるが、そこにカマドがあった可能性も考えられる。

【外周溝】 SD10、11が本住居跡に伴う外周溝と考えられるが、SD10は位置的にみて本住居跡に伴わない可能性もある。いずれにしろ北側の大半が調査区外であるため断定できない。

【関連土坑】 SK61が本住居跡に関連する土坑であろうと思われる。SD11に隣接するが両者に明確な新旧関係は認められない。また、SD11の先端も掘り込みが深くなっている。土坑状を呈する。

【付随掘立柱建物跡】 住居跡に付随する掘立柱建物跡は明確には確認できなかった。ただし、住居跡、南壁の南側一帯に柱穴状の小ビットが複数検出されているので、付近に掘立柱建物跡があつた可能性も考えられる。

【遺物】 住居跡内からの遺物出土数は少なく、図示できるものは2点のみである。遺物の多くは外周溝及び土坑内から出土している。



第9図 C区第1、2号住居及び関連遺構（SD10、11 SK61）出土遺物(2)

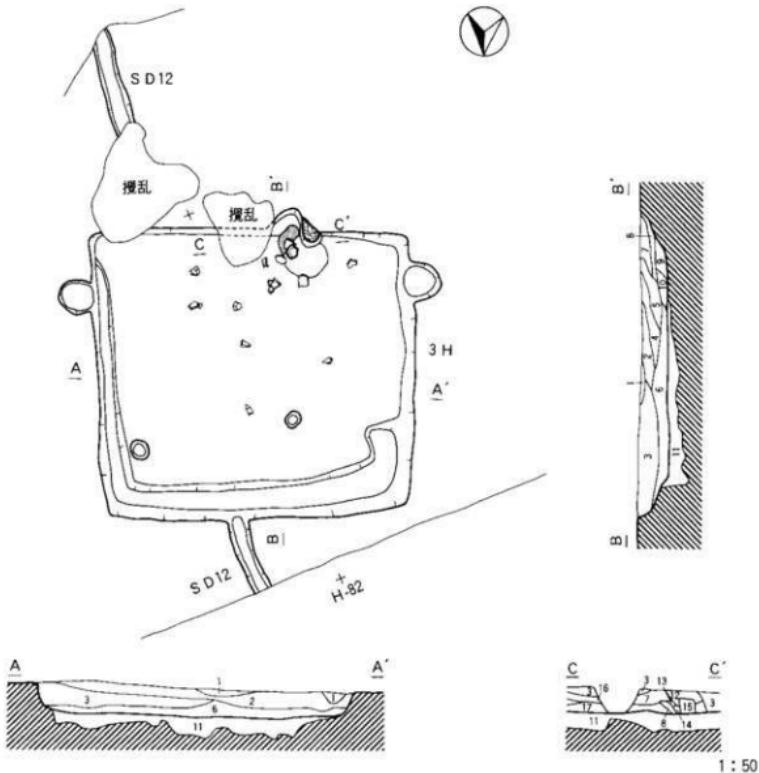
## 第3号住居跡

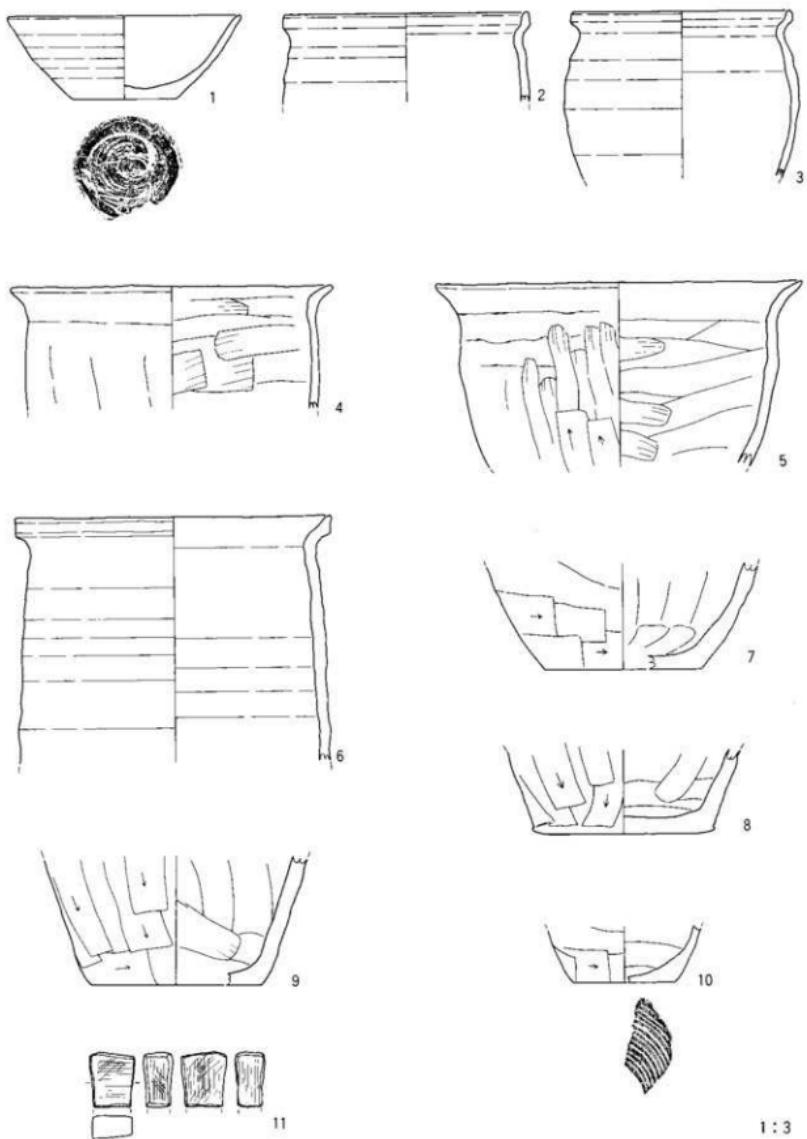
[位置] H～I-81グリッドにおいて確認されている。

[重複] SD12と重複している。新旧関係は不明瞭であるが、本住居跡の方が古いものと思われる。

[平面形・規模] 平面形は東西にやや長い長方形で、規模は東西3.2m、南北3.0mを測る。床面までの深さは約30cmである。主軸方向はS-14度-Eである。

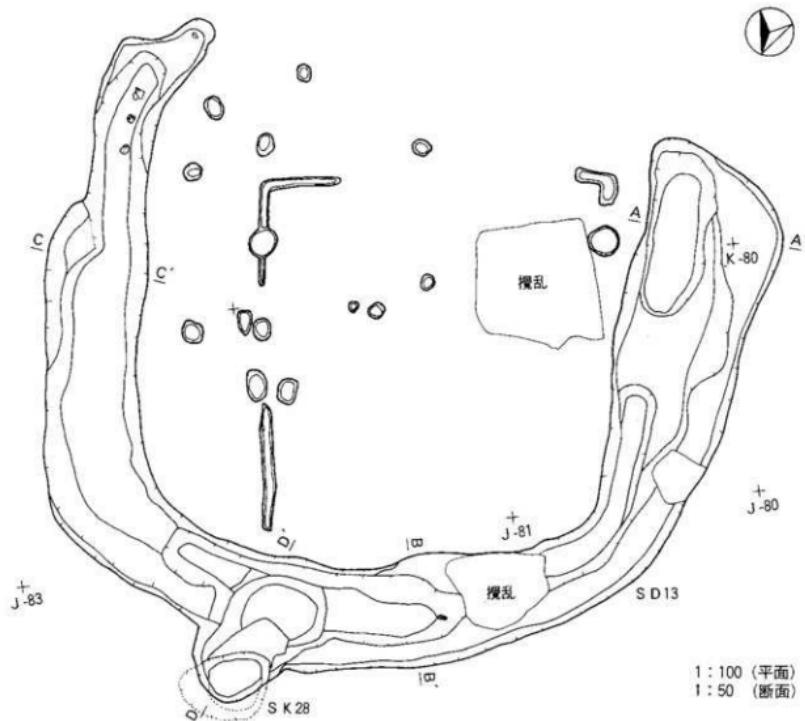
[壁・床面・周溝] 貼床により、床面は平坦に整形されている。明確な周溝は確認されていない。





第11図 C区第3号住居跡出土遺物





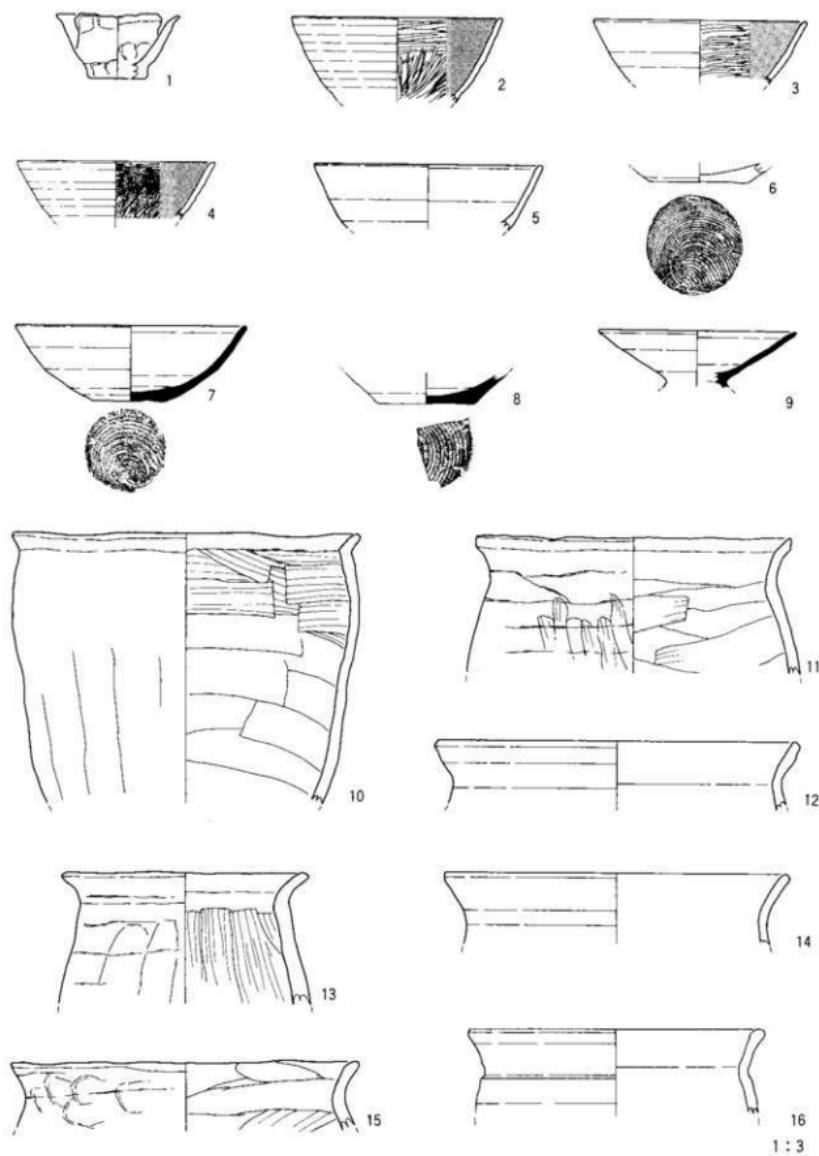
SD 13  
1号 10184/4 黄褐色土主体 ローム中粒10%、ローム中等35%、黄化颗粒5%混入。  
2号 10183/3 棕褐色土主体 ローム粒10%、ローム中等5%混入。

3号 10186/6 带黄褐色土主体 ローム層、黄褐色土(10184/4)初期段入。  
4号 10185/8 黄褐色土主体 ローム層、褐色土(10184/4)10%混入。

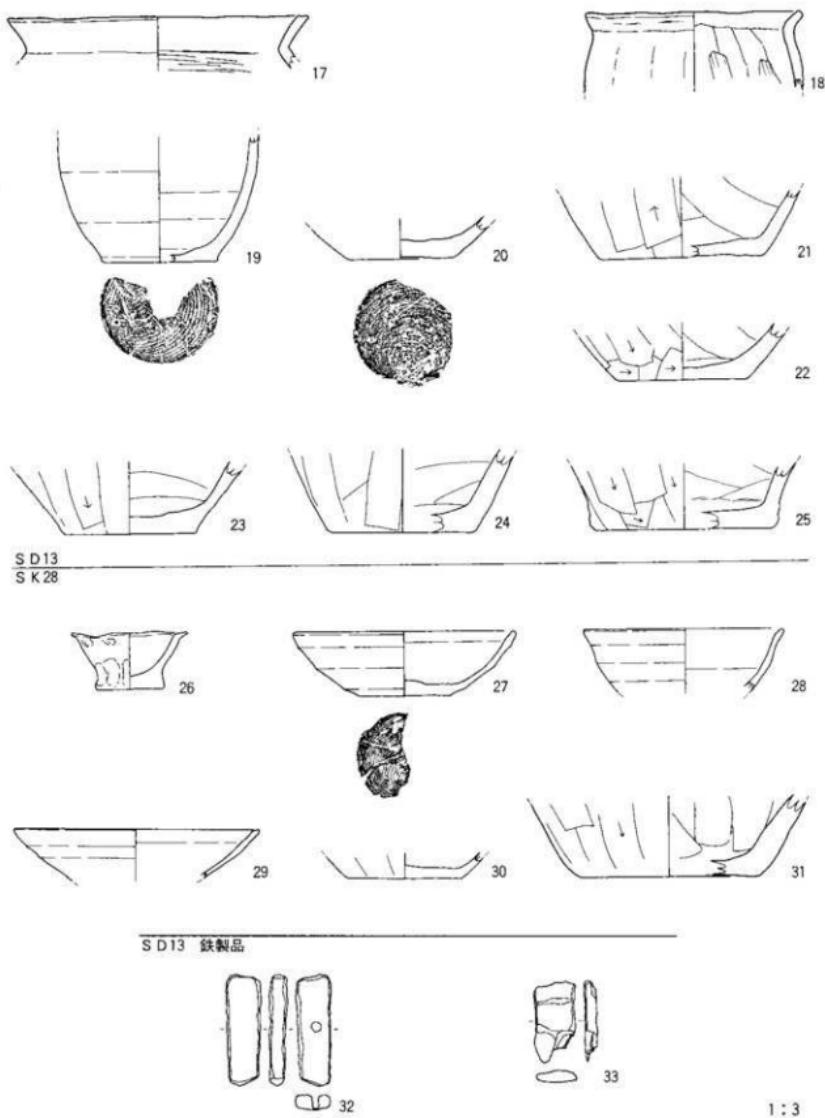


SD 2号  
1号 10184/2 带黄褐色土主体 ローム中粒10%、ローム小粒10%、黄化颗粒2%混入。  
2号 10182/1 黄褐色土主体 ローム大粒10%、黄化颗粒3%混入。  
3号 10182/3 带褐黄色土主体 ローム小粒30%、黄化颗粒3%混入。  
4号 10181/4 黄褐色土主体 黄褐色土(10182/2)10%混入。ローム大粒10%混入。  
5号 10182/2 黄褐色土主体 带褐黄色土(10182/4)40%混入。ローム大粒10%混入。  
6号 10185/8 黄褐色土主体 ローム層。E系(1)黄褐色土(10185/7)10%、带黄褐色土(10186/4)10%、黄褐色土(10182/2)30%混入。  
7号 10184/4 黄褐色土主体 ローム粒10%混入。  
8号 10182/3 黄褐色土主体 带褐色土(10184/8)15%混入。ローム粒5%混入。  
9号 10182/4 带褐黄色土主体 带褐黄色土(10182/3)30%混入。ローム中粒10%、ローム中等15%混入。  
10号 10185/4 E系(1)带黄褐色土主体 黄褐色土(10182/2)5%、黄褐色土(10185/7)30%混入。  
11号 10182/2 带褐黄色土主体 带褐黄色土(10182/4)10%混入。ローム粒20%混入。  
12号 10185/5 黄褐色土主体 带黄褐色土(10182/2)10%、带黄褐色土(10184/8)10%混入。

第12図 C区第4号住居跡及び関連遺構 (SD 13 - SK 28)



第13図 C区第4号住居跡関連構 (S D13 SK28) 出土遺物(1)



第14図 C区第4号住居跡関連遺構(S D 13 S K 28)出土遺物(2)

## 第6号住居跡

【位置】 L-83グリッド付近において確認されている。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 南側の大半が調査区外であるため全貌は不詳であるが、東西は約2mを測る。ほぼ方形であったものと推定される。主軸方向はS-29度-Eである。

【壁・床面・周溝】 床面は若干の凹凸がみられるものの比較的平坦である。周溝は検出されていない。壁面は緩く外傾しながら立ち上がる。

【柱穴】 確認されていない。

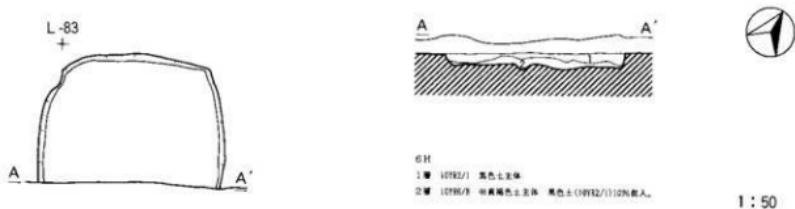
【カマド】 確認されていない。

【外周溝】 付随する外周溝はなかったものと思われる。

【関連土坑】 確認されていない。

【付随掘立柱建物跡】 南側が調査区外にかかるため断定できないが、なかったものと思われる。

【遺物】 小片のため図示できる遺物はないが、土師器甕等の破片が出土している。



第15図 C区第6号住居跡

## 第7号住居跡（関連遺構SD17、19）

【位置】 H-89~90グリッド付近において確認されている。

【重複】 SD29が重複している。本住居跡の方が新しいものと思われる。

【平面形・規模】 北側が調査区外にかかるため全体が検出されているわけではないが、東西約3.5mを測る。平面形はほぼ方形になるものと思われる。主軸方向はS-28度-Eである。

【壁・床面・周溝】 かなり削平を受けているが、床面は幸うじて遺存している。周溝は周囲に巡っていたようである。

【柱穴】 住居跡南壁の両端に検出されている。北壁の両端にも柱穴の存在が予想されるが、調査区外であるため確認できない。

【カマド】 ほとんど削平されているが、火床面が残存している。住居跡南壁の西寄りに位置する。火床面上にはカマドの構築材の一部と思われる人頭大の礫が検出されている。

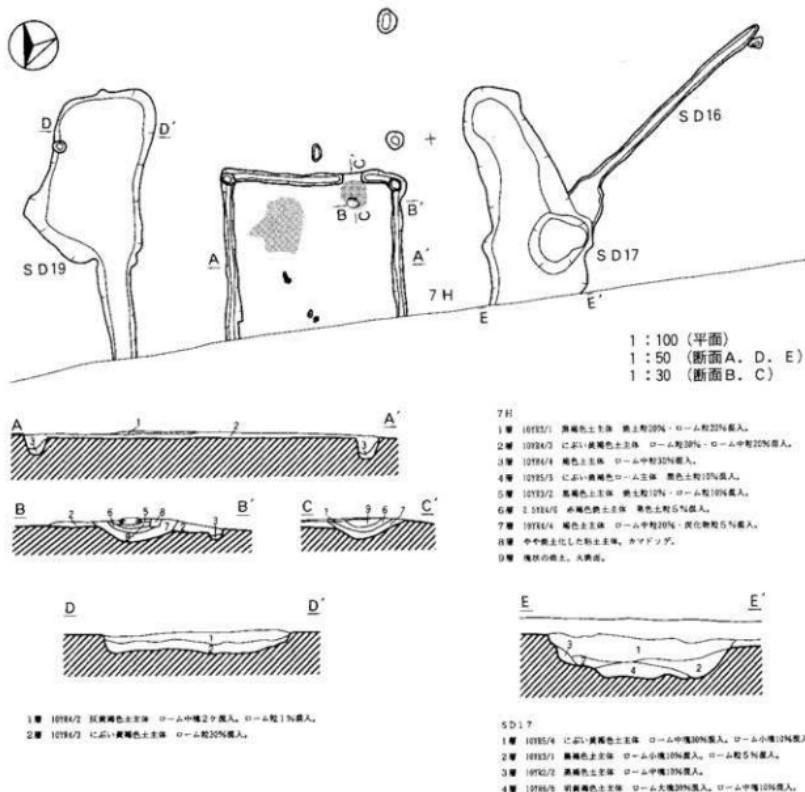
【外周溝】 SD17、19が本住居跡に伴う外周溝であろうと思われる。本来連続するものである可能性が高いが、調査区外にかかるため検証できない。SD17にはSD16が重複するが切り合ひ関係は明

確ではなく、後者が前者に合流するものであることも考えられる。

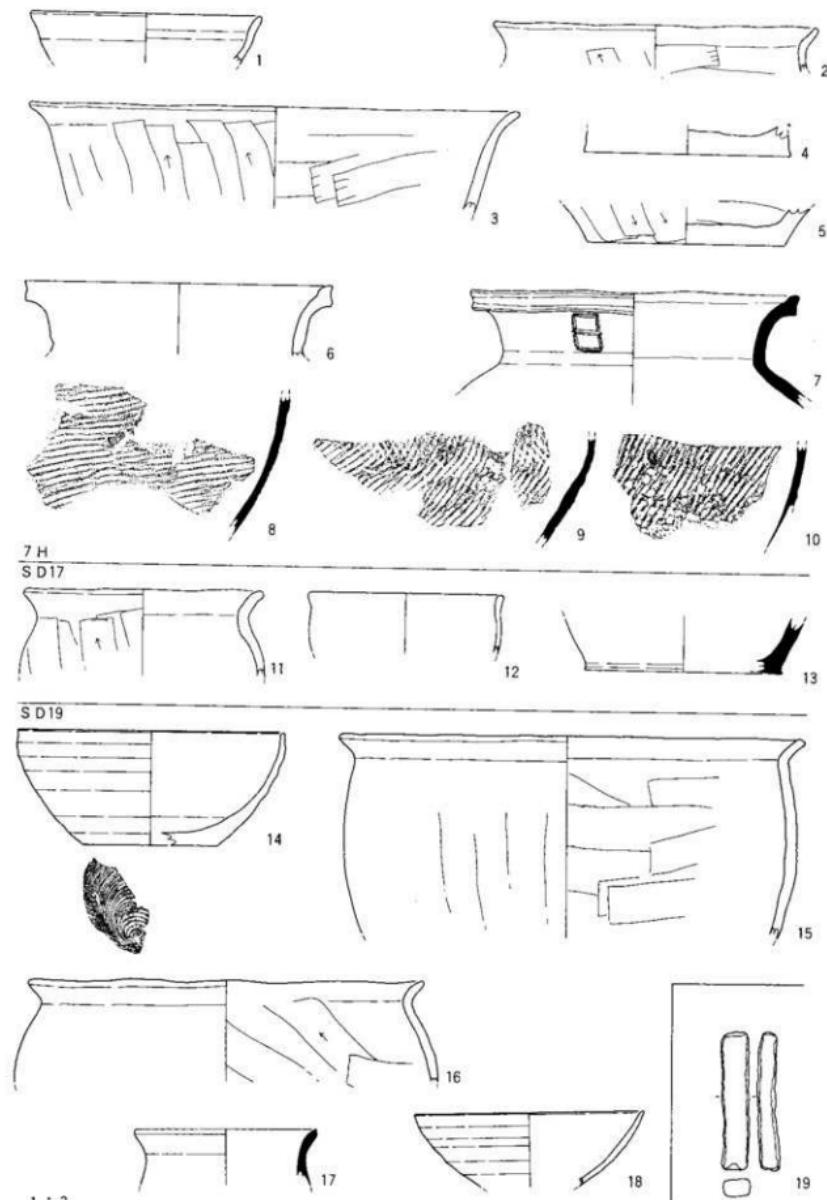
【関連土坑】 独立した土坑ではないが、SD17の一部と、SD19の先端部には土坑状の掘り込みがみられる。

【付随掘立柱建物跡】 明瞭には検出されなかったが、住居跡南壁の南側に柱穴状の小ピットが3基検出されている。これらは位置的にみても掘立柱建物跡の柱穴であった可能性が高い。

【遺物】 住居跡及び外周溝から土師器、須恵器の壊、甕などが出土している。須恵器甕には刻字のみられるものもある。



第16図 C区第7号住居跡及び関連構造(SD17, 19)



第17図 C区第7号住居跡及び関連遺構 (SD 17, 19) 出土遺物

## 第8号住居跡

[位置] H-89~90グリッドにおいて確認されている。

[重複] なし。

[平面形・規模] 周溝の一部が確認されているだけなので全体の平面形、規模は不明であるが、ほぼ方形だったと思われる。

[壁・床面・周溝] 住居跡北壁、東壁で周溝の一部が検出されている。床面は北東側に僅かに残存しているだけで、遺存状態は極めて悪い。壁もほとんど確認できないが、もともと掘り込みが浅かつたようである。

[柱穴] 周辺を含めて多数の小ピットが検出されているが、柱穴か否か判断するのは困難である。

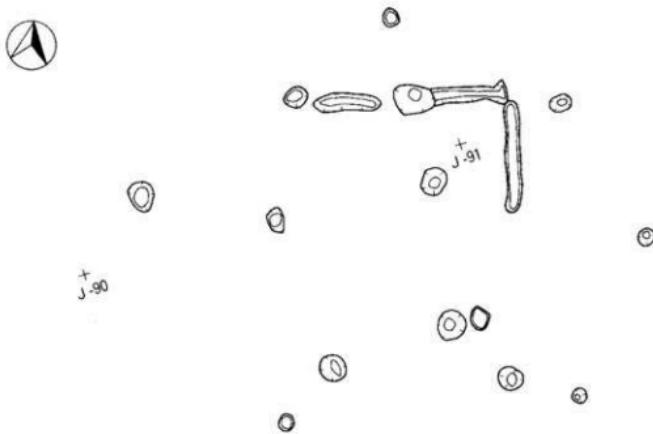
[カマド] 削平されたものと思われる。

[外周溝] 確認されなかった。

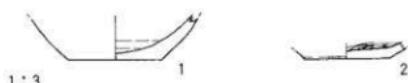
[関連土坑] 確認されなかった。

[付随掘立柱建物跡] 確認されなかった。

[遺物] 土師器甕、坏の小片が若干出土している。



第18図 C区第8号住居跡



第19図 C区第8号住居跡出土遺物

## 第10号住居跡

【位置】 F～G-101グリッド付近において確認されている。

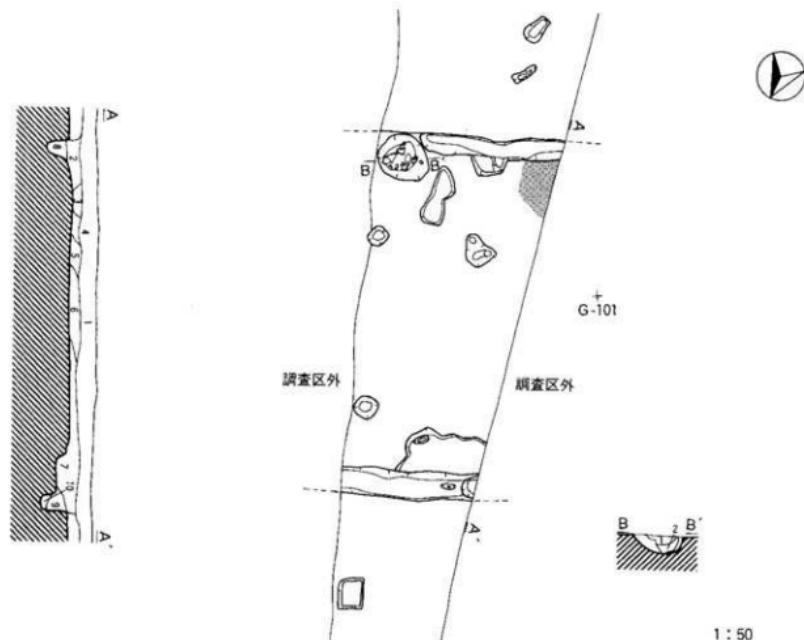
【重複】 なし。

【平面形・規模】 住居跡の東西両側が調査区外であるため全貌は不詳であるが、南北は約3.7mを測る。平面形はほぼ方形であったことが予想される。

【壁・床面・周溝】 周溝は北壁と南壁で検出されている。東壁と西壁は調査区外であるため不明である。

【柱穴】 柱穴状の小ピットが2基検出されている。

【カマド】 明瞭には検出されていないが、南壁の西側に焼土の集中が確認されている。カマドの火



- 1号 10104/2 从燒褐色土主体 明眞褐色土(0.937/0.30%・炭化物粒)を混入。  
 2号 10104/1 黃褐色土主体 ローム中塊(0.047/0.1%混入。  
 3号 10102/2 黃褐色土主体 黃褐色土(0.028/0.15%混入。  
 4号 10102/2 黃褐色土主体  
 5号 10102/2 黃褐色土主体 燒褐色土(0.027/0.5%・明眞褐色土(0.027/0.1%混入。  
 6号 10102/2 燒褐色土主体 ローム中塊(0.028/0.30%混入。  
 7号 10102/2 黃褐色土主体 ローム中塊(0.028/0.10%・燒褐色土(0.022/0.10%混入。  
 8号 10102/6 黃褐色土主体  
 9号 10102/2 黃褐色土主体 ローム中塊(0.027/0.10%混入。  
 10号 10107/1 黃褐色土主体 褐褐色土(0.031/0.30%混入。

- 1号 10103/1 黃褐色土(0.036/0.15%混入。  
 2号 10103/1 黃褐色土主体

第20図 C区第10号住居跡

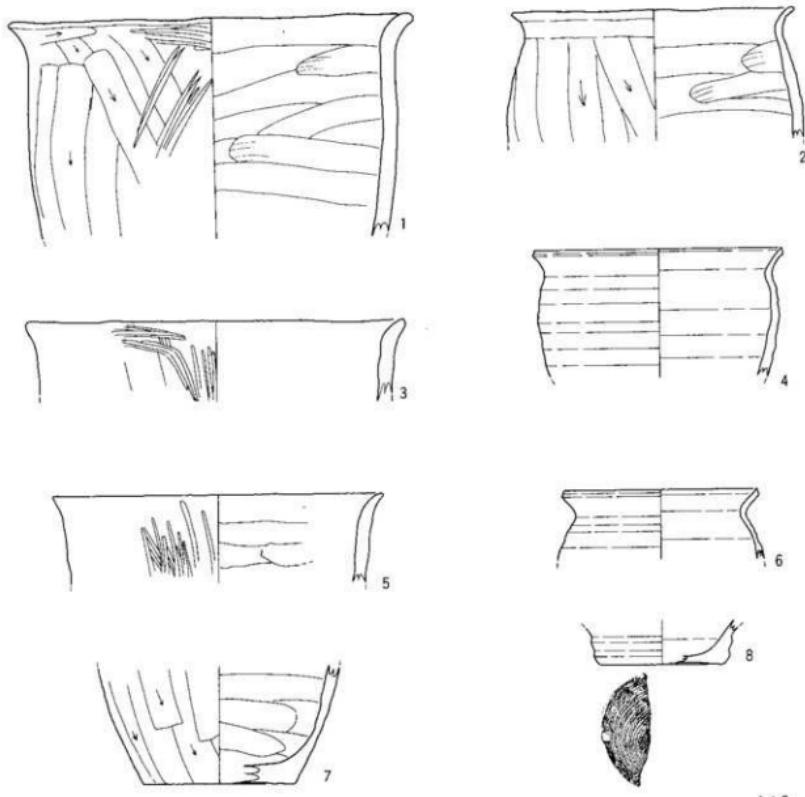
床面である可能性が考えられる。

〔外周溝〕 確認されていないが、前年度の調査で検出されたA区第5号溝跡が本住居跡に伴う外周溝である可能性も考えられる。

〔関連土坑〕 確認されていない。

〔付随掘立柱建物跡〕 確認されていない。

〔遺物〕 土師器甕の破片等が出土している。



第21図 C区第10号住居跡出土遺物

1:3

## 第11号住居跡（関連遺構 S D23、S D30、S K43、60）

〔位置〕 H-98～99グリッド付近において確認されている。

〔重複〕 S D25がS D30に重複している。前者の方が新しいようである。

〔平面形・規模〕 カマドの一部が検出されただけで、住居跡本体のほとんどは調査区外であるため規模、平面形は不明である。

〔壁・床面・周溝〕 住居跡本体部分が調査区外であるため壁、床面、周溝の状態は不明である。

〔柱穴〕 不明である。

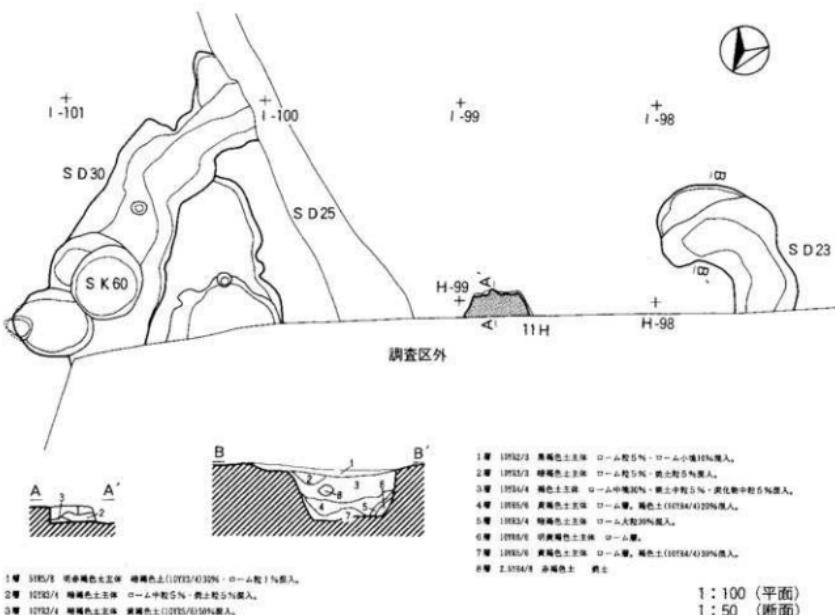
〔カマド〕 カマドの南端部分が検出されているが、全体の構造は不明である。

〔外周溝〕 S D23、S D30が本住居跡に伴う外周溝であろうと思われる。両者一連のものであった可能性も高いが、調査区外にかかるため検証できない。

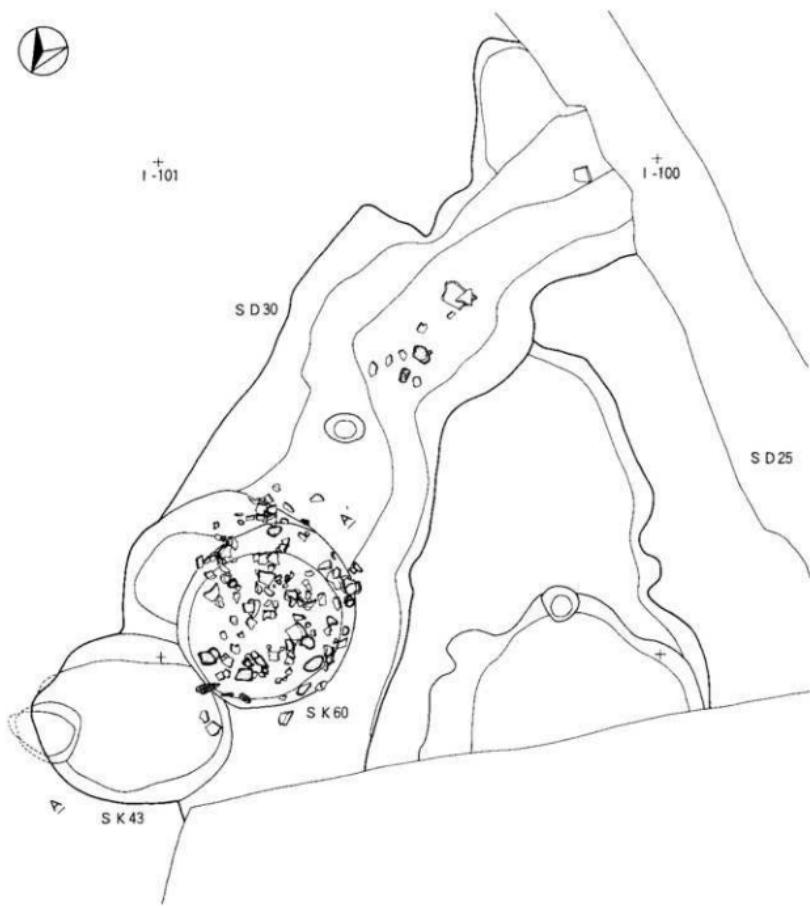
〔関連土坑〕 S D30内にS K60が確認されている。切り合い関係は明瞭ではないので両者同時期の所産と推定される。土坑番号は付していないが、他にもS D30内にはそれと同時期と思われる土坑状の掘り込みが認められる。

〔付随掘立柱建物跡〕 確認できなかった。

〔遺物〕 カマドおよびS D30、S K60から多数の遺物が出土している。特にS K60内からは土師器



第22図 C区第11号住居跡及び関連遺構 (S D23, 30 S K60)



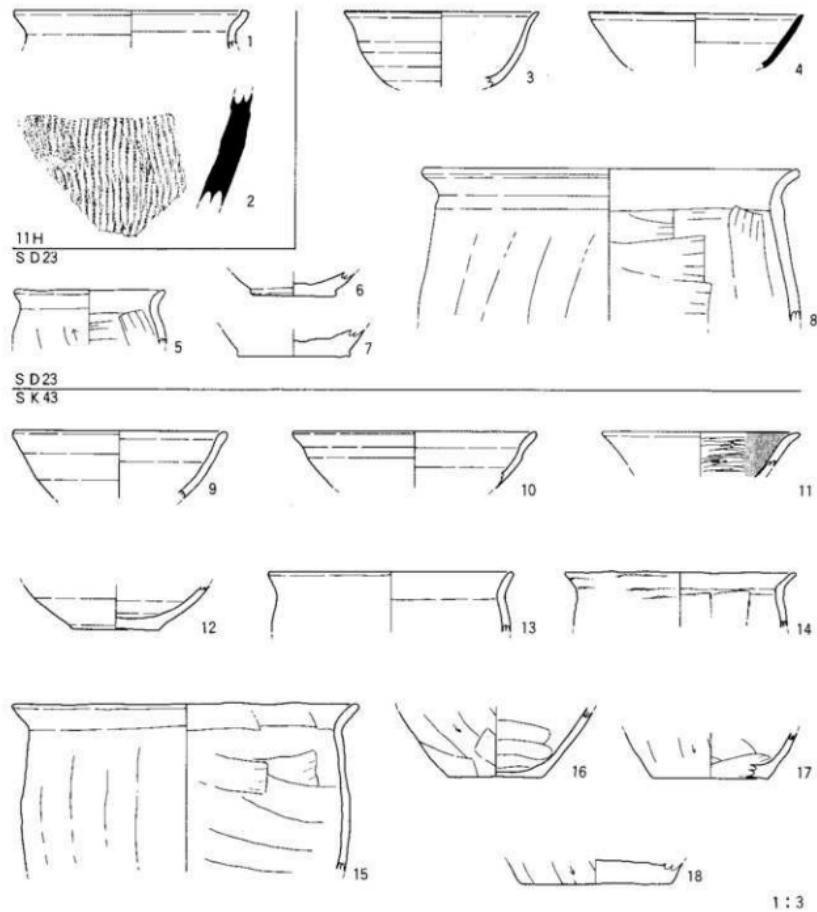
- 101F/E 宅黃褐色土主体 泥黃褐色土(101E/2)30%混入。  
 □ 101E/2 泥黃褐色土主体。  
 △ 2 101F/1 混合褐色土主体 泥黃褐色土(101E/1) 5%混入。  
 ▲ 3 101E/2 泥黃褐色土主体 地灰褐色土(101E/1) 5%混入。  
 ▽ 4 101E/2 泥黃褐色土主体 黃褐色土(101E/2) 5%混入。  
 ▽ 5 101E/2 泥黃褐色土主体 黃褐色土(101E/2) 10%混入。  
 ▽ 6 101E/2 泥黃褐色土主体 黃褐色土(101E/2) 20%混入。  
 ▽ 7 101E/2 泥黃褐色土主体 黃褐色土(101E/2) 30%混入。  
 ▽ 8 101E/2 泥黃褐色土主体 泥黃褐色土(101E/2) 10%混入。  
 ▽ 9 101E/2 泥黃褐色土主体。  
 ▽ 10 101E/1 泥黃褐色土主体 泥黃褐色土(101E/1) 20%混入。



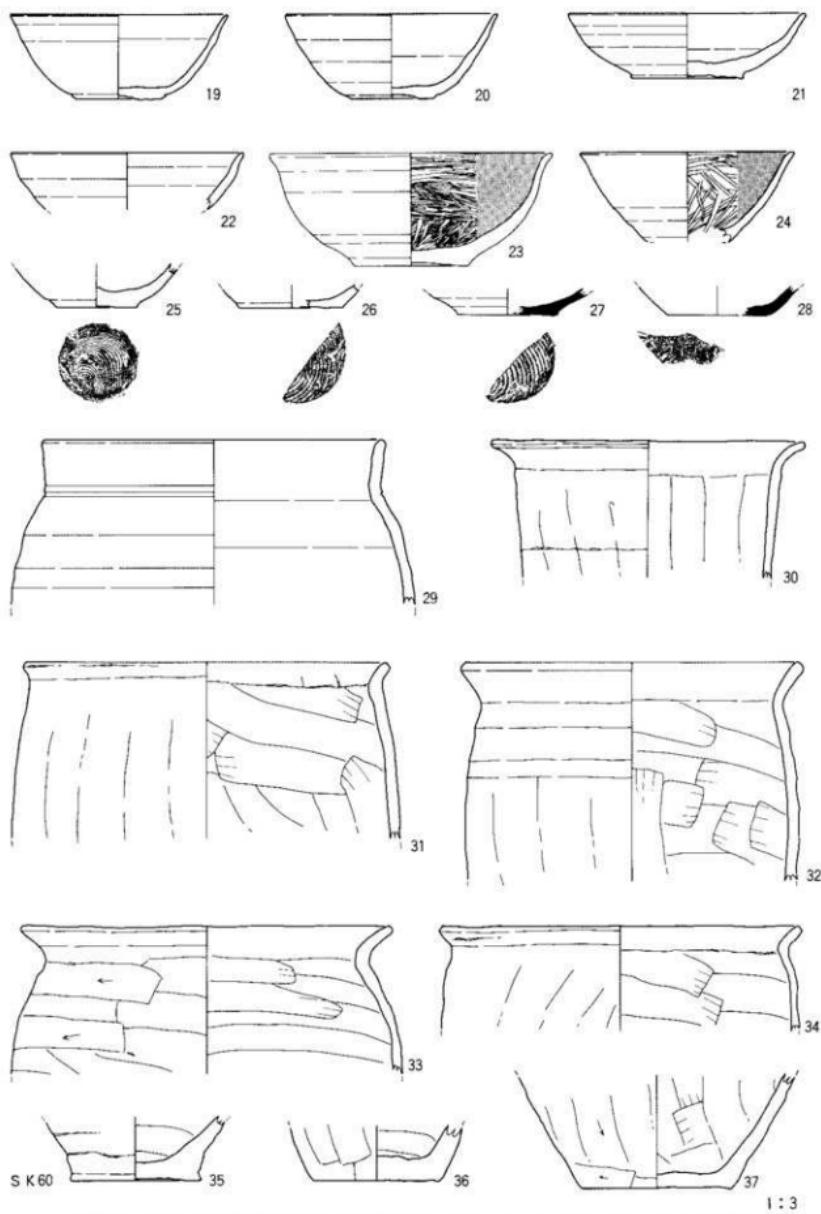
1 : 40

第23図 C区第30号溝跡 第60号土坑遺物出土状態

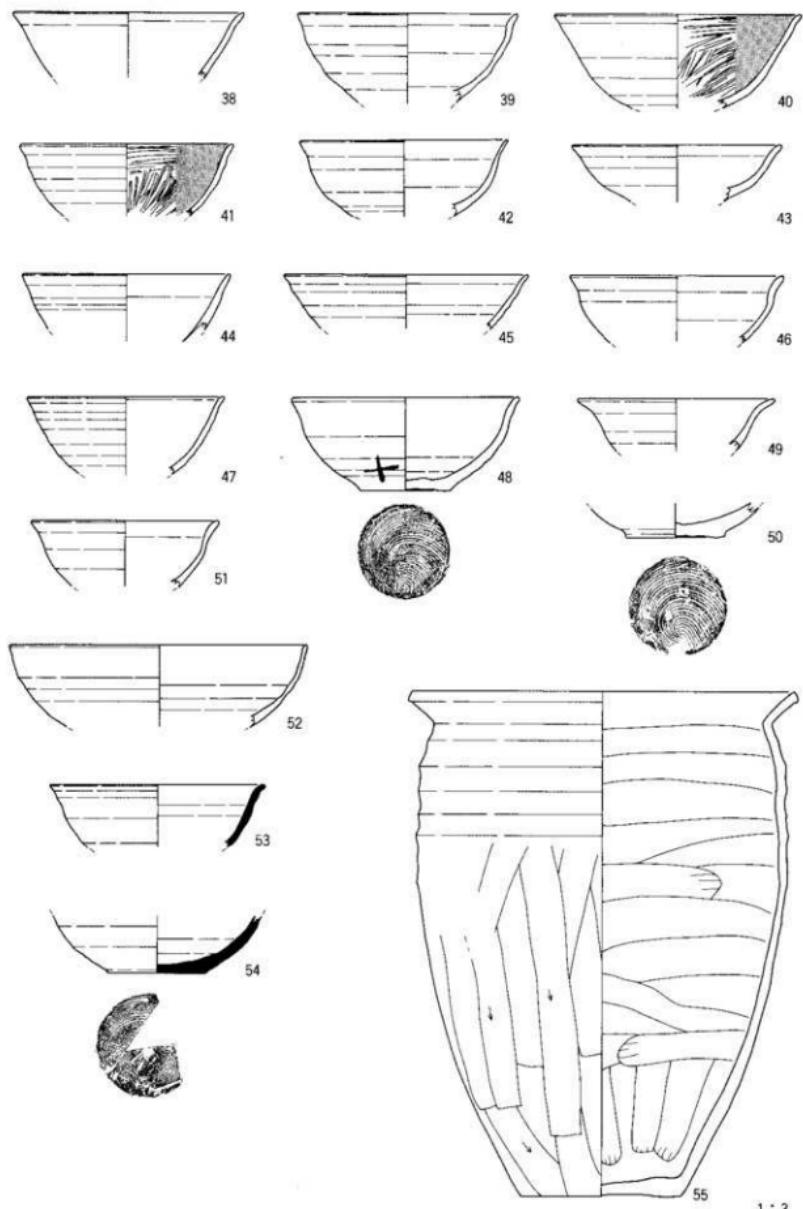
甕、壺を始めとする大量の土器が検出されている。なお、SD30付近は完掘に近づいた状態で溝跡、土坑などが識別されたが、確認面では平面形を把握することが困難であり、当初第9号住居跡として精査を進めた。そのため S J 9 として取り上げた遺物もSD30及びSK60内の遺物として掲載した。



第24図 C区第11号住居跡及び関連遺構 (SD 23, 30 SK 43, 60) 出土遺物(1)

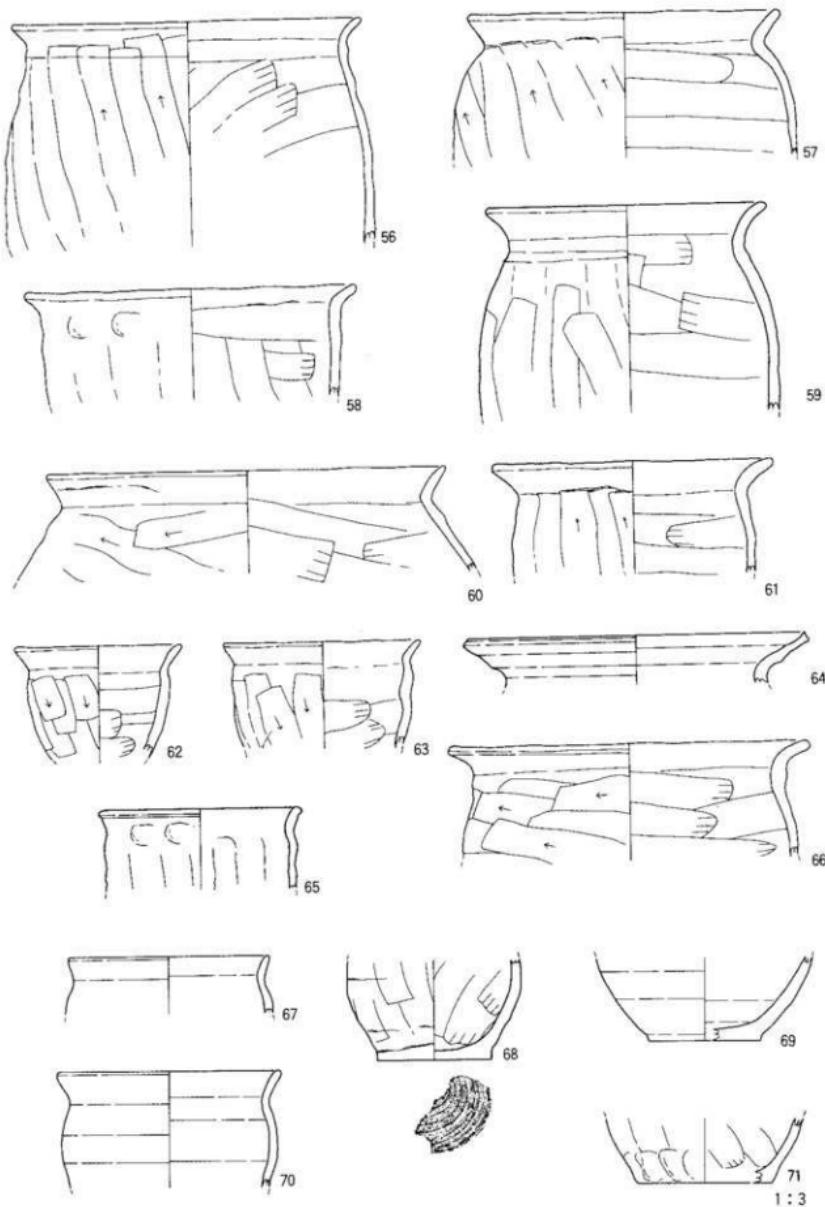


第25図 C区第11号住居跡及び関連遺構 (S D23, 30 S K43, 60) 出土遺物(2)

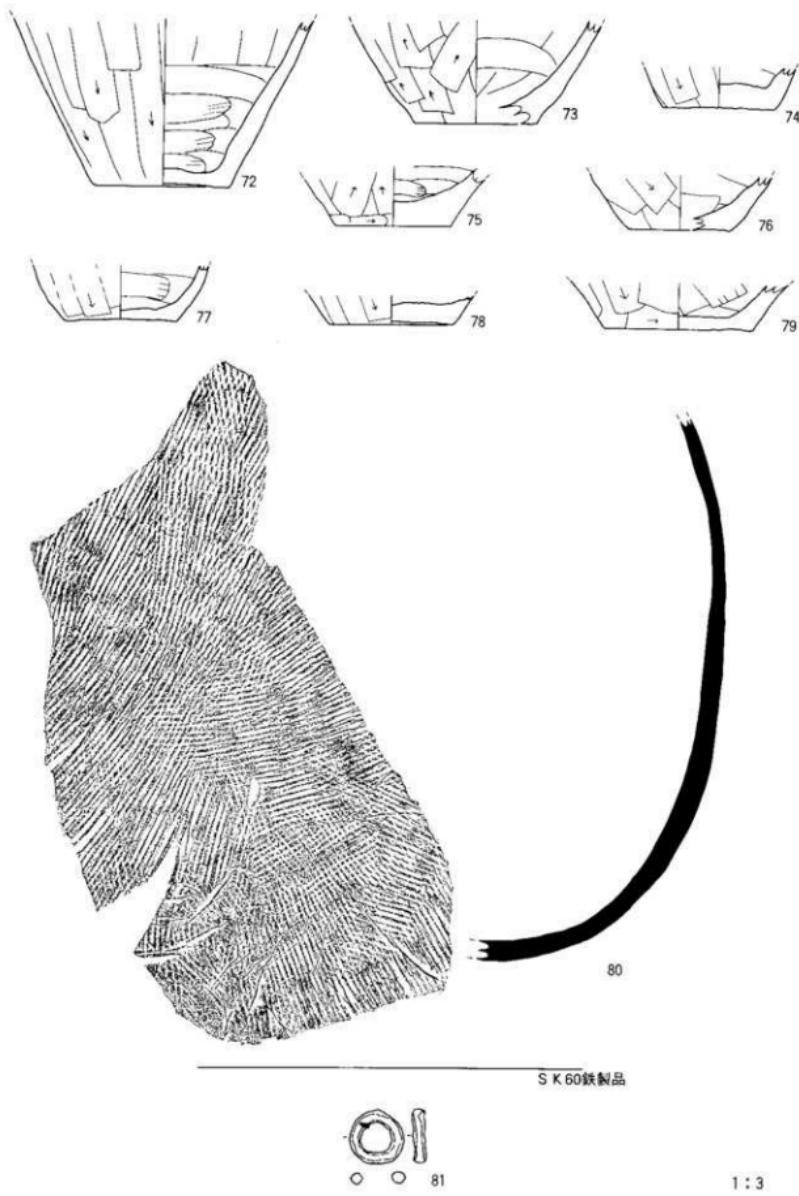


第26図 C区第11号住居跡及び関連遺構 (S D 23, 30 SK 43, 60) 出土遺物(3)

1:3



第27図 C区第11号住居跡及び関連遺構 (S D 23, 30 SK 43, 60) 出土遺物 (4)



第28図 C区第11号住居跡及び関連遺構 (SK 43. 60 SD 30) 出土遺物(5)

## 第1号井戸跡 (関連遺構 S D22)

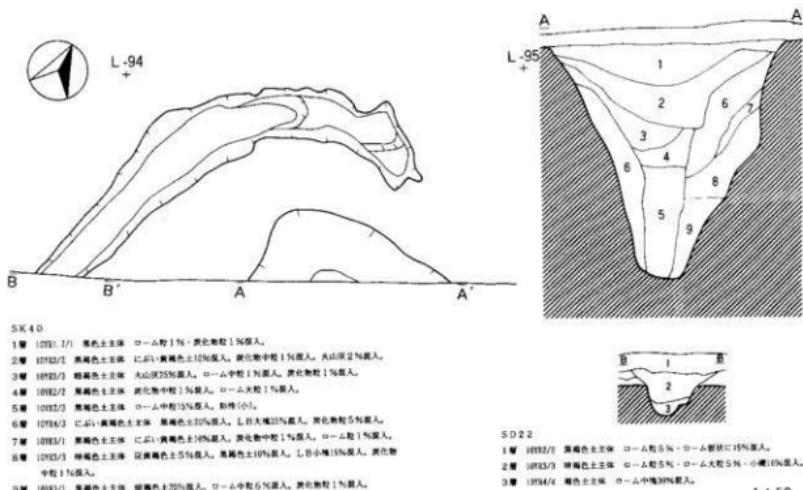
〔位置〕 L-94グリッドで確認されている。

〔重複〕 なし。

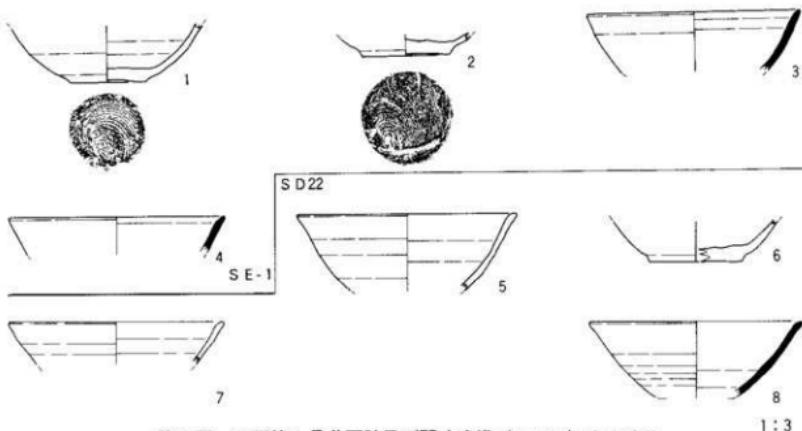
〔平面形・規模〕 大半が調査区外にかかるため全貌は不明であるが、検出された範囲内での最深部は確認面から約2.3mを測る。

〔遺物〕 土師器、須恵器の壺の破片が出土している。

〔堆積土〕 ある程度埋没した段階で白頭山・苦小牧火山灰が堆積している。従って本井戸跡が掘削



第29図 C区第1号井戸及び関連遺構(S D22)



第30図 C区第1号井戸跡及び関連遺構(S D22)出土遺物

されたのは同火山灰降下以前のことと推測される。

〔関連遺構〕 断言できないが、SD22が本井戸跡に関連する遺構であろうと思われる。井戸跡を取り囲むようにその平面形とほぼ並行に巡り、北側は開口していたようである。

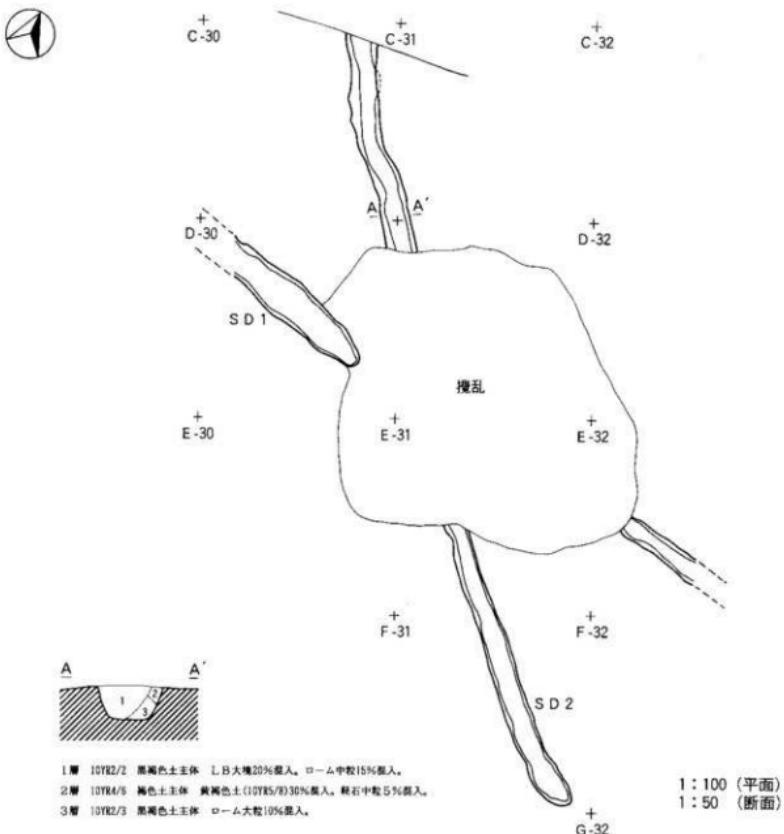
## 第2号溝

〔位置〕 C-30からF-31グリッドにおいて確認されている。

〔重複〕 第1号溝跡と重複していたと思われるが、重複部分に搅乱があるため直接新旧関係を読み取ることはできない。覆土の状態等から類推すると本溝跡の方が古いものと思われる。

〔平面形・規模〕 北側は調査区外まで延伸しているため全貌は明確ではないが、確認面での計測値は幅50~60cm、深さ約30cmである。溝は北から南へ緩く傾斜している。

〔遺物〕 出土していない。



第31図 C区第2号溝跡

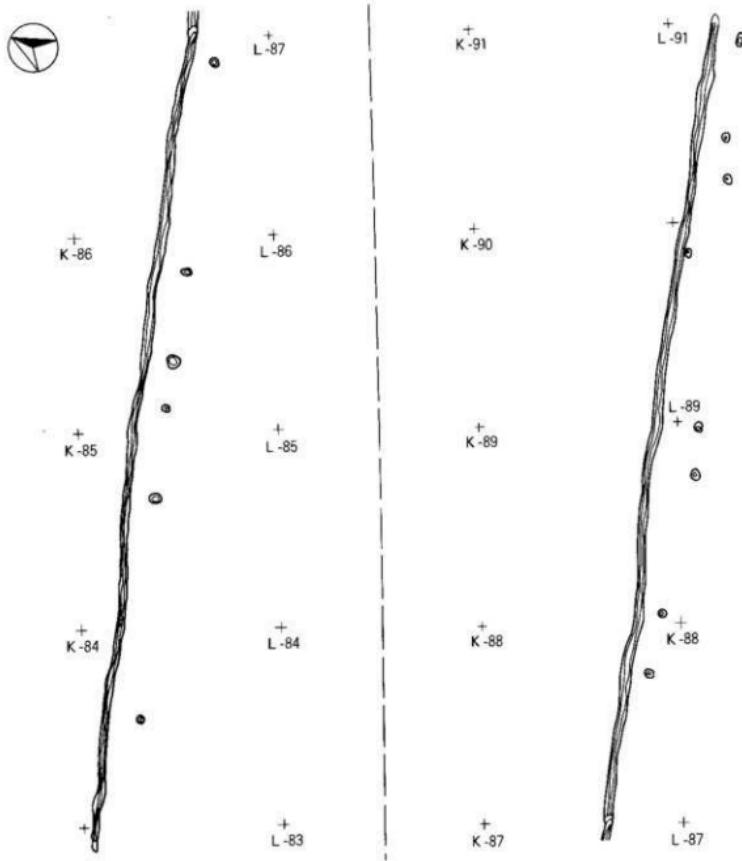
## 第14号溝

〔位置〕 K-83からL-92グリッドにかけて確認されている。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 幅は10cm程度で長さは約32.5mを測る。本溝跡の南側に並行するように柱穴状の小ビットが14基ほど確認されており、本溝跡との関連が予想される。

〔遺物〕 出土していない。



第32図 C区第14号溝跡

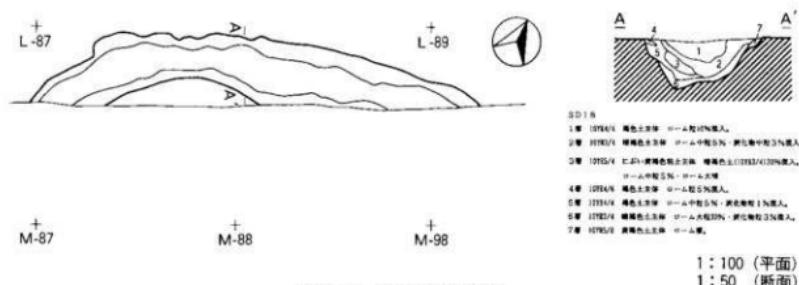
第18号溝

【位置】 L-87～89グリッドにおいて確認されている。

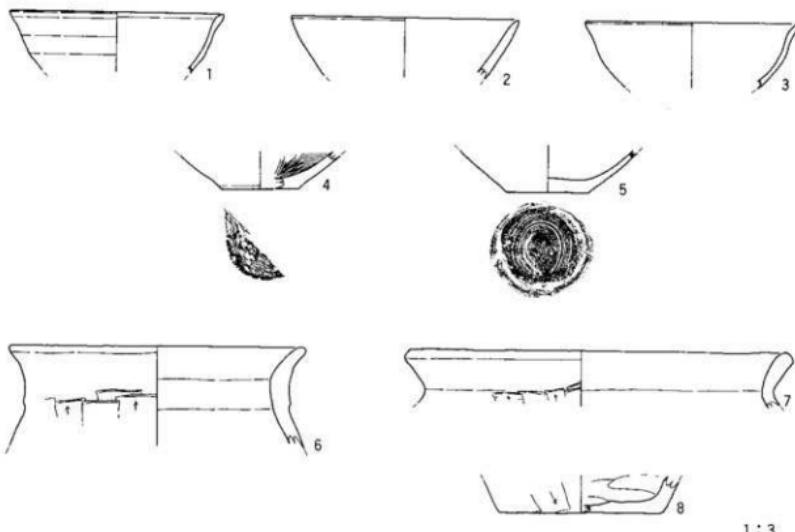
【重複】 なし。

【平面形・規模】 大半が調査区外にかかるため全貌は不明であるが、確認面での幅は1.2m前後、深さは50cm前後である。住居跡に伴う外周溝と比較すると規模、平面形はほぼ同等になるものと思われ、覆土の状況も外周溝とよく似ていることから、本溝跡は住居跡に伴う外周溝であった可能性が高い。住居跡は本溝跡の南側の調査区外にあったことが予想される。

【遺物】 土師器壺、甕の破片が出土している。



第33図 C区第18号溝跡



第34図 C区第18号溝跡出土遺物

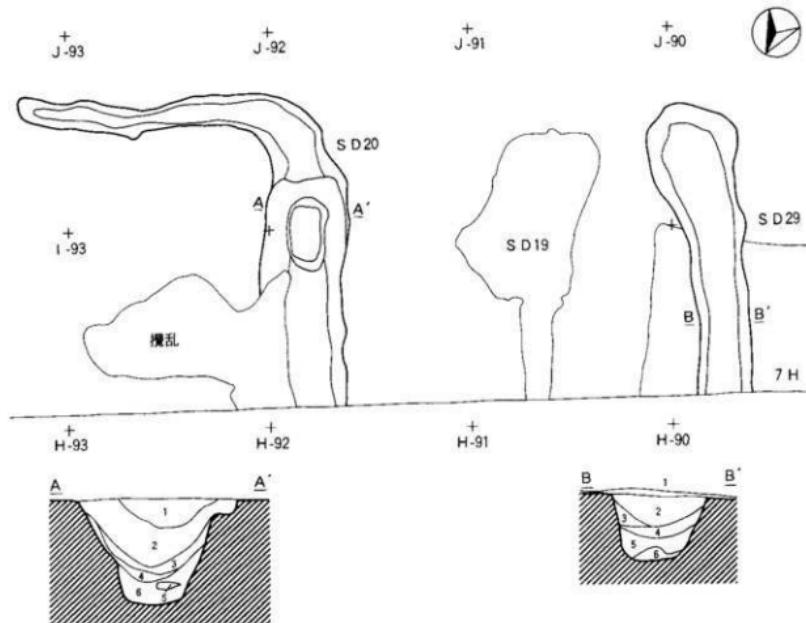
## 第20号溝

【位置】 H-92~I-92~93グリッドにおいて確認されている。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 大半が調査区外であるため全貌は不詳である。H-92杭付近からほぼ南に延び、I-92杭付近で東に屈曲する。調査区境界付近での確認面からの深さは約50cmであるが、I-92グリッド付近では深さ約110cmを測り土坑状を呈する。この土坑状の掘り込み以北は平面形、堆積土の特徴とともに住居跡に伴う外周溝と共に通するものである。後述するように本溝跡は本来第29号溝跡と一連の溝であり、H-90、91付近にあったと予想される住居跡を囲んでいた可能性が考えられるものである。屈曲部から東側は末端部に向かってしだいに掘り込みが浅くなる。

【遺物】 土器器坏、甕、須恵器坏とともにミニチュア土器が出土している。また、須恵器坏の中には「大」の字が刻まれたものが含まれる。



- 1号 10935/4 Cに近い黄褐色土主体 しまりあり。ローム中層5%混入。ローム粒5%混入。
- 2号 10937/6 黄褐色土主体 しまりあり。ローム大塊30%混入。黒色土5%混入。
- 3号 10932/2 黄褐色土主体 粘性あり。ローム粒10%混入。
- 4号 10937/6 黄褐色土主体 黄褐色土5%混入。
- 5号 10935/2 黄褐色土主体 ローム粒5%混入。
- 6号 7.5735/6 墓色土主体

- 1号 10932/7 黄褐色土主体 深部物質5%混入。黒土を含む。
- 2号 10932/4 黄褐色土主体 ローム大塊10%~ローム大塊30%混入。
- 3号 10932/7 黄褐色土主体 ローム粒5%~ローム大塊10%混入。
- 4号 10932/7 黄褐色土主体 ローム粒5%混入。
- 5号 10932/7 黄褐色土主体 ローム大塊50%混入。
- 6号 10932/7 黄褐色土主体 ローム粒5%混入。

1:100 (平面)  
1:50 (断面)

第35図 C区第20、29号溝跡

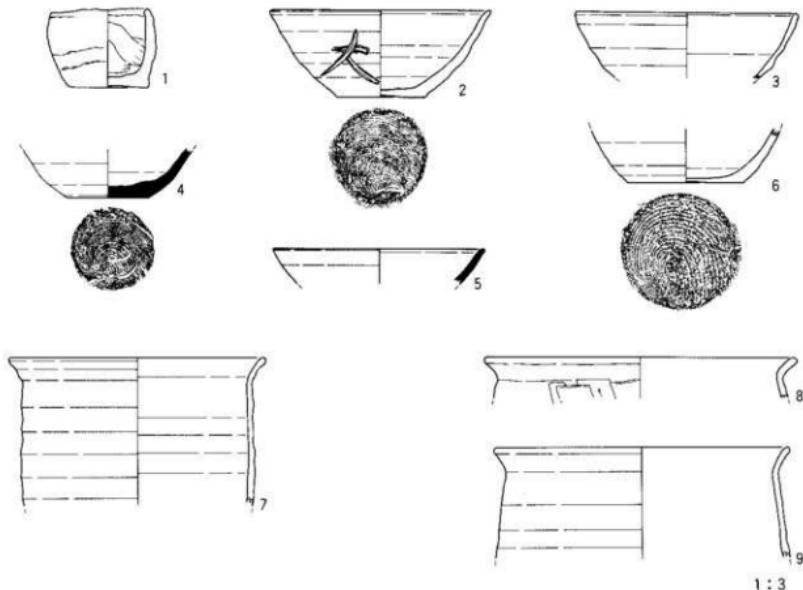
### 第29号溝

〔位置〕 H～I-89グリッドにおいて確認されている。

〔重複〕 第7号住居跡と重複している。切り合い関係から本溝跡の方が古いものと思われるが、住居跡による削平は本溝跡上部の一部のみである。

〔平面形・規模〕 北側の大半が調査区外であるため全貌は明らかでない。確認面での計測値は幅約1m、深さ約60cmであるが、南側に向かってしだいに深くなり、幅も広がって先端は土坑状を呈する。形態的な特徴及び覆土の状況から住居跡に伴う外周溝であったものと思われ、本来第20号溝跡と一連のものであった可能性が高いが、調査区外にかかるため検証できない。両溝跡が伴う住居跡はH-90～91グリッド付近に存在したものと推測されるが、周辺は削平が著しく確認できなかった。

〔遺物〕 小片のため図示できないが、土師器片が出土している。



第36図 C区第20号溝跡出土遺物

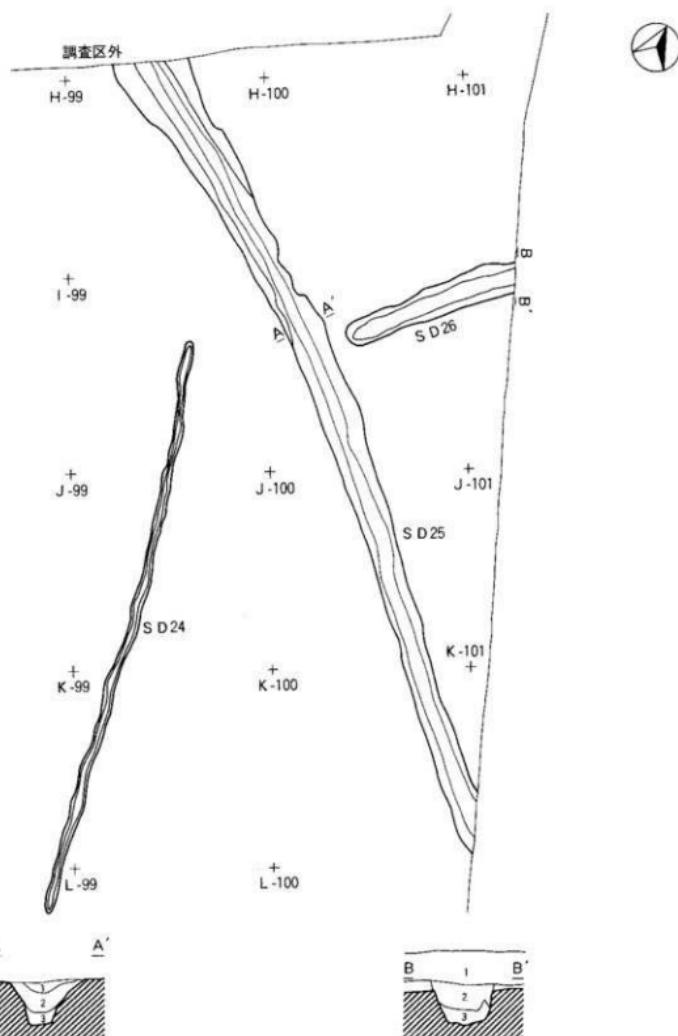
### 第24号溝

〔位置〕 I-99から～L-98グリッドにかけて確認されている。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 確認面での計測値は幅約20cm、長さ約12mである。

〔遺物〕 出土していない。



1層 10Y82/2 黒褐色土主体 しまりあり。ローム小塊1ヶ混入。  
2層 10Y83/1 黒褐色土主体 しまりあり。ローム粒5%混入。  
3層 10Y84/3 にぶい黄褐色土主体 しまりあり。ローム小塊3ヶ混入。

1層 10Y85/4 にぶい黄褐色土主体 ローム粒30%混入。  
2層 10Y82/1 黒褐色土主体 ローム5%混入。  
3層 10Y84/2 淡黄褐色土主体 ローム30%混入。

1:100 (平面)  
1:50 (断面)

第37図 C区第24~26号溝跡

#### 第25号溝

〔位置〕 F-99からK-100グリッドにかけて確認されている。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 北側は調査区外に延伸し、南側は現道路により削平されているため全貌は不詳である。確認面での計測値は幅60~140cm、深さ約40cmである。

〔遺物〕 図示できるものは少ないが、土師器、須恵器の壊、甕の破片が出土している。

#### 第26号溝

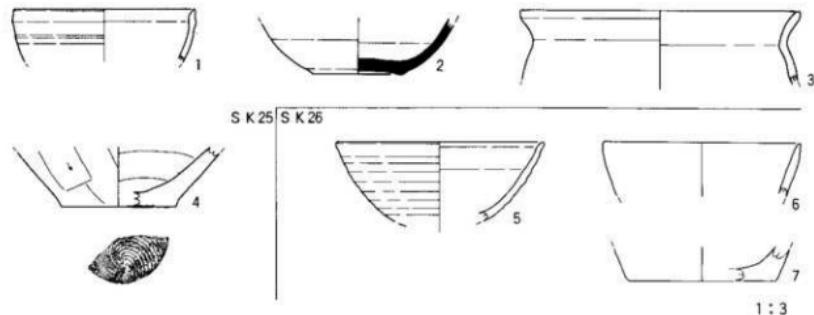
〔位置〕 I-100グリッドにおいて確認されている。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 東側は現道路により削平されているが、延長上に前年度の調査区で確認されたA区第7号溝跡がある。方向性、覆土の状況から判断して両溝跡は本来一連のものであった可能性が高いものと推測される。

〔遺物〕 土師器壊、甕などの破片が出土している。

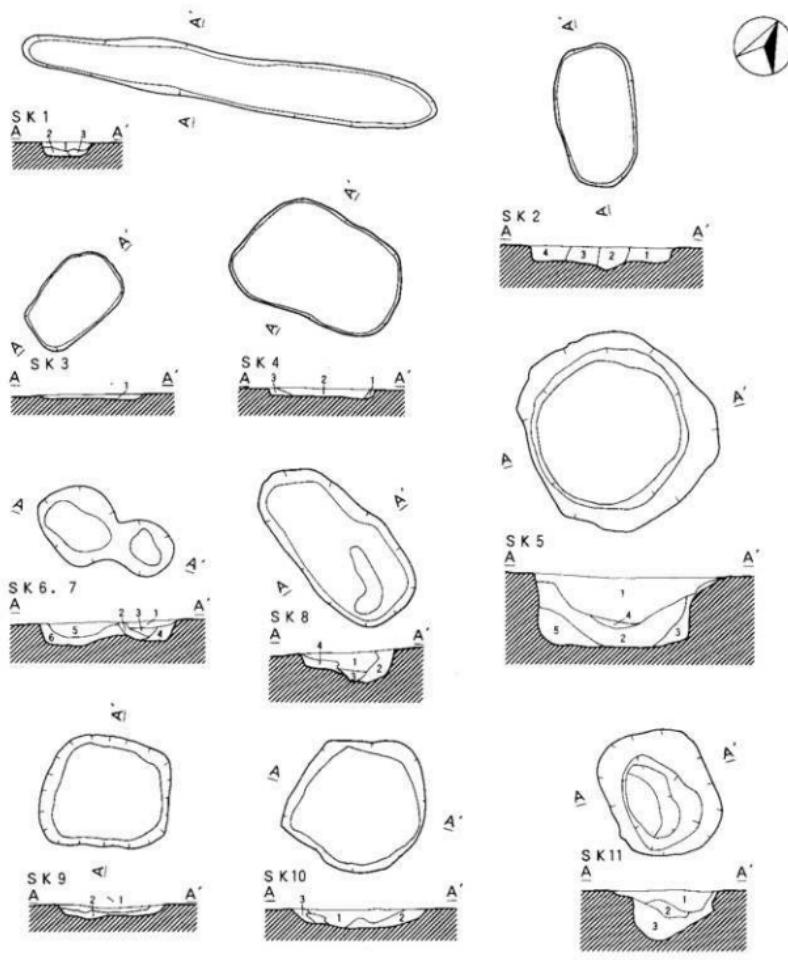
(川口 潤・七戸将光)



第38図 C区第25、26号溝跡出土遺物

第1表 C区土坑

土坑番号	位 置	規模(m)	深さ(cm)	出土遺物	重複	備 考
第1号土坑	G-45	4.2×0.6	15	なし	なし	
第2号土坑	G-45～46	1.5×0.8	20	なし	なし	
第3号土坑	H-46	1.0×0.7	7	なし	なし	
第4号土坑	H-45	1.6×1.0	8	なし	なし	
第5号土坑	H～I-95～96	2.0×2.0	70	なし	なし	
第6号土坑	K-69	0.7×0.7	25	なし	第7号土坑	本土坑の方が古い
第7号土坑	K-69	0.5×0.5	20	なし	第6号土坑	本土坑の方が新しい
第8号土坑	K-69～70	1.9×1.0	30	なし	なし	
第9号土坑	J-71	1.3×1.1	15	なし	なし	
第10号土坑	K-72	1.5×1.4	20	なし	なし	
第11号土坑	K-73	1.3×1.1	50	なし	なし	
第12号土坑	K-73～74	3.3×0.6	20	なし	なし	
第13号土坑	K～L-74～75	1.5×1.5	10	なし	第14号土坑	新旧関係は不明確
第14号土坑	J～K-74～75	2.4×1.4	10	なし	第13号土坑	新旧関係は不明確
第15号土坑	K-75	1.5×1.0	40	土師器甕片・須恵器甕片等	なし	第46図参照
第16号土坑	K-76	2.1×0.9	20	なし	なし	
第17号土坑	L-77	1.2×1.2	30	なし	なし	一部調査区外
第18号土坑	J-78	1.4×1.1	15	なし	なし	
第19号土坑	K～L-79	1.2×1.0	30	なし	第20号土坑	新旧関係は不明確
第20号土坑	L-79	0.8×0.8	26	なし	第19,21号土坑	新旧関係は不明確
第21号土坑	K～L-79	1.2×0.9	13	なし	第20,22号土坑	新旧関係は不明確
第22号土坑	K-79	2.1×0.6	15	土師器壺	第21号土坑	新旧関係は不明確
第23号土坑	L-79	0.4×0.4	10	土師器小片1点	なし	一部調査区外
第24号土坑	K-79～80	1.2×0.7	18	なし	なし	
第25号土坑	K-80	1.0×0.7	20	なし	なし	
第26号土坑	K～L-81	0.7×0.6	15	なし	第27号土坑	新旧関係は不明確
第27号土坑	K～L-81	1.3×0.8	22		第26号土坑	新旧関係は不明確
第29号土坑	J-83	1.0×1.4	25		なし	
第30号土坑	H-84～85	1.8×1.0	60	なし	なし	
第31号土坑	L-85～86	1.3×1.3	40	なし	なし	一部調査区外
第32号土坑	I-86	1.8×1.4	25	なし	第49号土坑	新旧関係は不明確
第49号土坑	I～J-85	1.5×0.6	12	なし	第32号土坑	新旧関係は不明確
第33号土坑	I-86～87	1.6×1.2	10	なし	なし	
第34号土坑	I-89	1.0×0.8	20	土師器小片1点	なし	
第36号土坑	L-91	1.5×—	30	土師器壺	なし	第46図参照
第37号土坑	L-92	—	30	なし	なし	一部調査区外
第39号土坑	K-93	1.6×1.6	65	土師器片・甕・須恵器甕・砾石等	なし	第46図参照
第41号土坑	H-94～95	2.5×0.7	20	土師器壺等	なし	第47図参照
第42号土坑	I-96	1.4×1.2	40	なし	なし	
第44号土坑	K-94	1.3×1.1	16	土師器小片約10点	なし	
第45号土坑	L-84	1.2×1.2	35	なし	なし	一部調査区外
第46号土坑	L-84	0.5×0.4	22	なし	なし	
第47号土坑	L-84～85	0.9×0.8	30	なし	なし	
第48号土坑	K～L-85	2.2×—	20	なし	なし	
第50号土坑	G～H-66	1.5×1.9	30	なし	なし	
第51号土坑	G-66	1.0×1.0	16	なし	なし	
第52号土坑	I-84	0.7×0.5	20	なし	なし	
第53号土坑	J-84	1.1×0.6	30	なし	なし	
第55号土坑	H～I-98	1.3×1.3	15	土師器壺・甕等	なし	第47図参照
第56号土坑	E-101	—	110	土師器甕等	なし	第47図参照
第63号土坑	H-99	0.8×0.9	15	なし	なし	
第64号土坑	I-98～99	1.4×1.0	20	なし	なし	
第65号土坑	L-82	—	30	なし	なし	
第66号土坑	J～K-85	2.8×—	45	なし	なし	
第67号土坑	J～K-85～86	2.8×—	45	なし	なし	
第68号土坑	J～K-77	0.9×—	25	なし	なし	
第69号土坑	I-86	1.0×0.4	10	なし	なし	



## SK 1

- 1号 1018/1 黒色土主体 ローム粒20%混入。  
2号 1018/2 黑褐色土主体 ローム粒10%混入。  
3号 1018/4 黄色土主体 ローム粒、黑褐色土(1018/2)20%混入。

## SK 2

- 1号 1018/1 黄色土主体 ローム半粒20%混入。  
2号 1018/2 黑褐色土主体 ローム粒10%混入。  
3号 1018/3 黑褐色土主体 L.B大粒10%混入。  
4号 1018/4 黑色土主体 ローム半粒15%混入。

## SK 3

- 1号 1018/1 黑褐色土主体 ローム半粒10%混入。

## SK 4

- 1号 1018/4 黑褐色土主体 ローム粒10%混入。  
2号 1018/2 黑褐色土主体 ローム粒5%混入。  
3号 1018/3 黑褐色土主体 ローム粒5%混入。

## SK 5

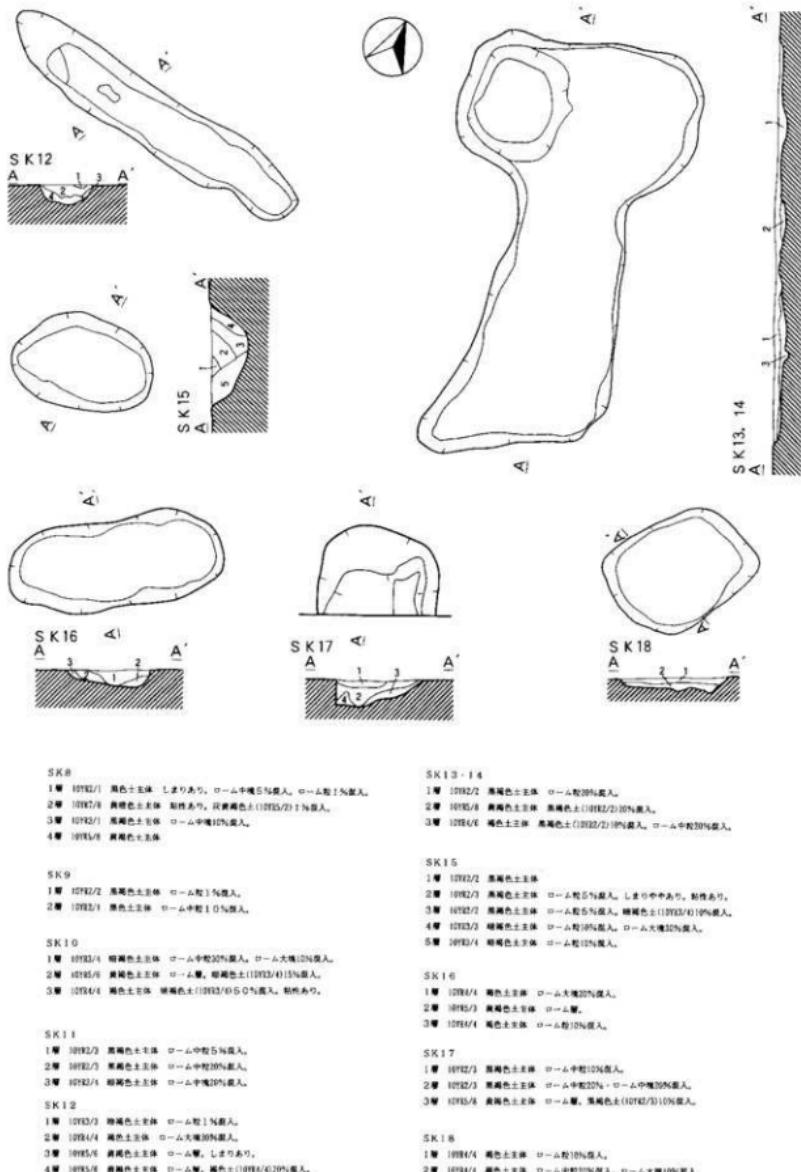
- 1号 1018/7(1) 黑褐色土主体 ローム粒5%混入。  
2号 1018/7 黑褐色土主体 ローム粒20%、黑色土10%混入。  
3号 1018/8 黄褐色土主体 黄褐色土10%混入。  
4号 1018/9 黑褐色土主体 黑色土5%混入。  
5号 1018/6 黑褐色土主体 剥離あり。ローム粒5%混入。

## SK 6・7

- 1号 1018/3(2) に赤小葉黒色土主体。  
2号 1018/5(4) に赤小葉黒色土主体 ローム粒20%混入。  
3号 1018/7(3) 黑褐色土主体 ローム粒5%混入。  
4号 1018/6(1) 黄褐色土主体 ローム半粒5%混入。  
5号 1018/6(2) 黄褐色土主体 剥離あり。ローム粒5%混入。  
6号 1018/3(2) に赤小葉黒色土主体

1:50

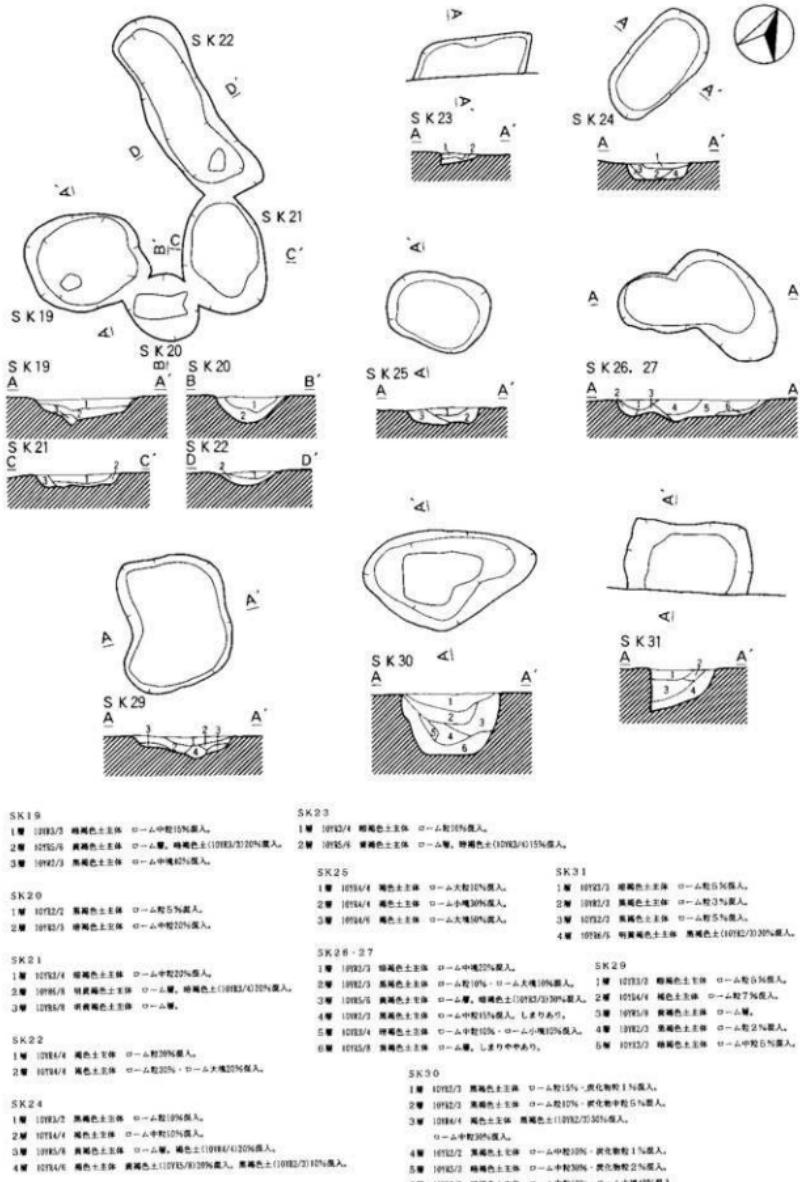
第39図 C区第1~11号土坑



1:50

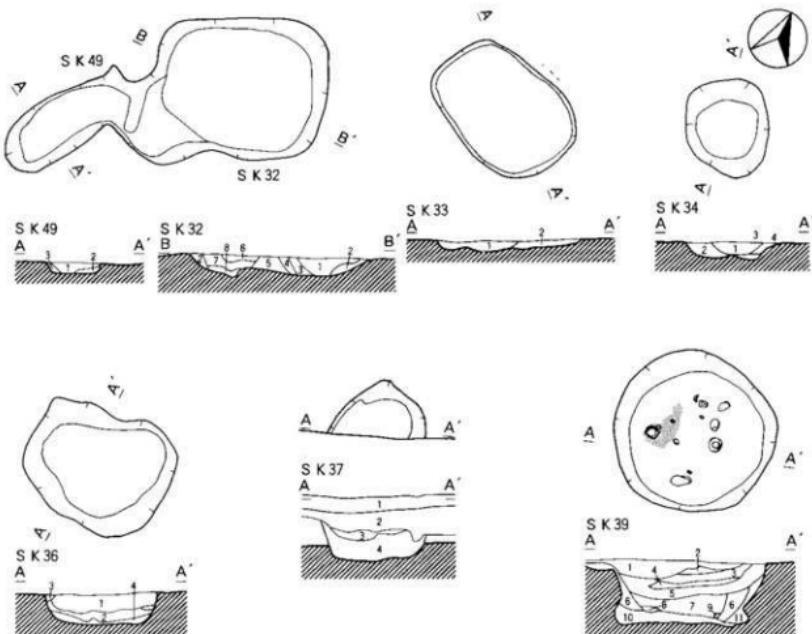
第40図 C区第12~18号土坑

羽黒平(1)遺跡C区



第41図 C区第19~27, 29~31号土坑

1:50



## SK 32

- 1号 1013/1 黄褐色土主体 ローム中1%混入。
- 2号 1013/2 黄褐色土主体 ローム層。しまりあり。
- 3号 1013/3 黄褐色土主体 ローム粒5%、ローム小塊13%、黄化物粒13%混入。
- 4号 1013/2 黄褐色土主体 ローム小粒2%混入。
- 5号 1013/4 黄褐色土主体 ローム中塊1%混入。
- 6号 1013/5 黄褐色土主体 ローム粒5%混入。
- 7号 1013/6 黄褐色土主体 ローム粒5%、ローム小塊1%混入。
- 8号 1013/7 黄褐色土主体 ローム層。しまり非常にあり。

## SK 33

- 1号 1013/2 黄褐色土主体 ローム中10%混入。
- 2号 1013/3 黄褐色土主体 ローム層。
- 3号 1013/4 黄褐色土主体 ローム粒5%混入。

## SK 34

- 1号 1013/1 黄褐色土主体 ローム中粒5%、黄化物粒1%混入。
- 2号 1013/2 黄褐色土主体 ローム粒5%混入。
- 3号 1013/3 黄褐色土主体 ローム中塊約5%混入。
- 4号 1013/4 黄褐色土主体 ローム粒10%、ローム大粒20%混入。

## SK 36

- 1号 1013/1 黄褐色土主体 ローム中塊10%混入。
- 2号 1013/2 黄褐色土主体 ローム粒5%混入。
- 3号 1013/3 黄褐色土主体 ローム中塊約5%混入。
- 4号 1013/4 黄褐色土主体 ローム粒10%、ローム大粒20%混入。

## SK 37

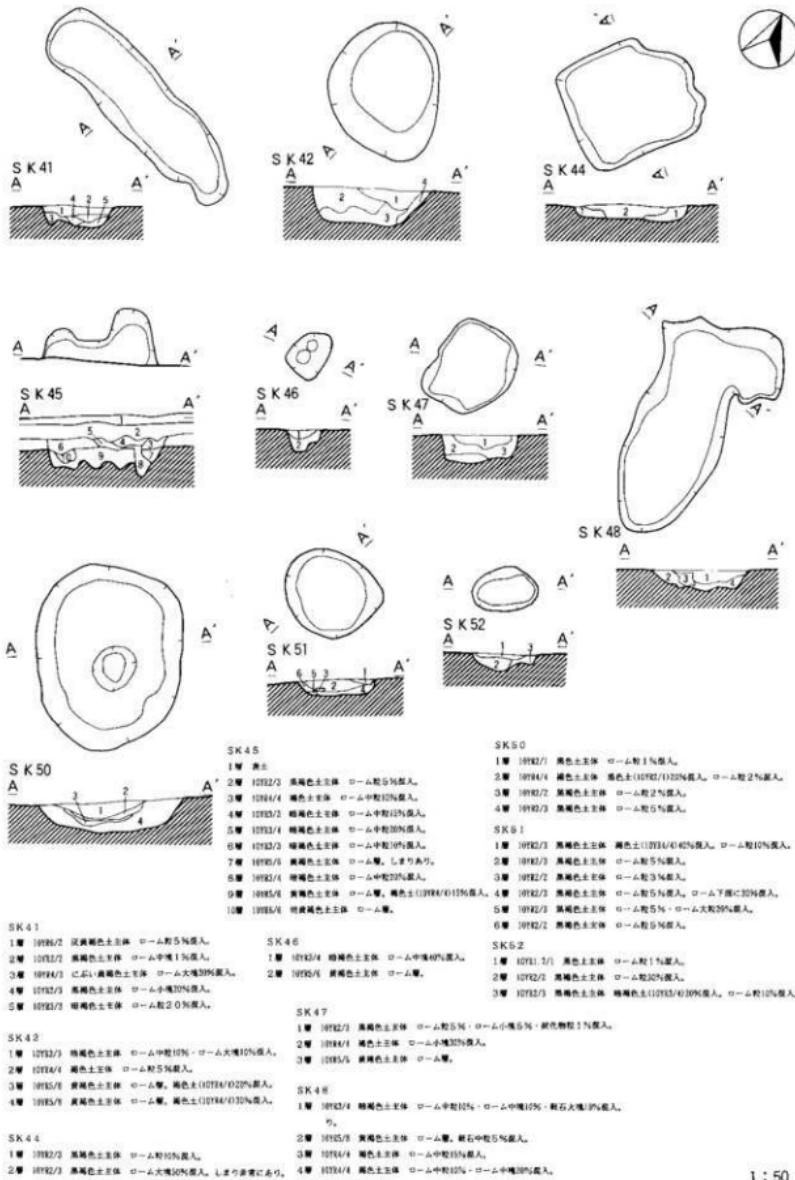
- 1号 1013/1 黄褐色土主体 黑褐色土0.05%~0.20%混入。
- 2号 1013/2 黄褐色土主体 ローム粒10%混入。
- 3号 1013/2 黄褐色土主体 ローム大粒1%~2%混入。
- 4号 1013/2 黑褐色土主体 ローム中粒10%、ローム中塊20%混入。

## SK 39

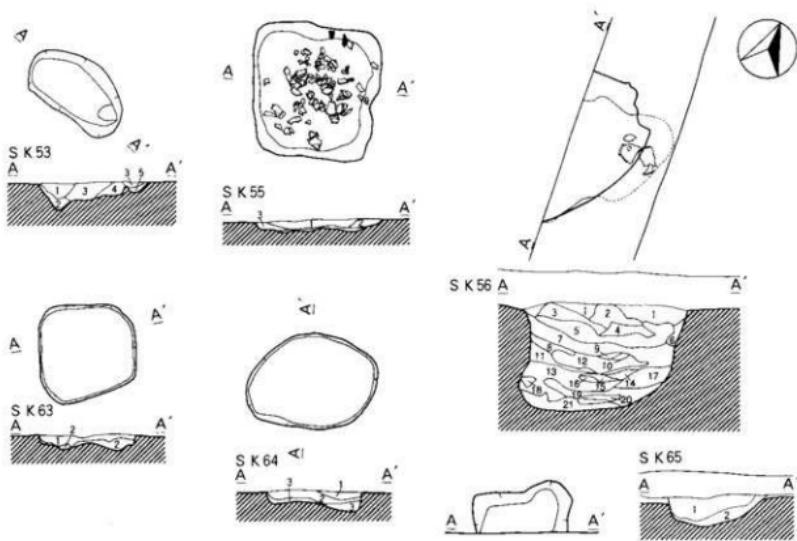
- 1号 1013/2 黄褐色土主体 ローム粒1%、小塊15%混入。
- 2号 1013/2 黄褐色土主体 小塊40%混入。
- 3号 1013/4 黄褐色土主体 ローム大粒10%~20%混入。
- 4号 1013/4 黄褐色土主体 小塊10%混入。
- 5号 1013/4 黄褐色土主体 ローム粒5%、ローム大粒5%混入。
- 6号 1013/3 黄褐色土主体 ローム中塊20%混入。割れ目ややあり。
- 7号 1013/4 黄褐色土主体 ローム小塊15%、黄化物中粒15%混入。
- 8号 1013/2 黄褐色土主体 ローム中粒10%、黄化物大粒10%、黄土30%、火山灰15%混入。
- 9号 1013/4 黄褐色土主体 ローム粒5%、黄化物大粒10%、黄土中粒2.5%混入。
- 10号 1013/4 黄褐色土主体 ローム粒5%、ローム大粒10%、7、10層界に火山灰10%混入。
- 11号 1013/4 黄褐色土主体 ローム小塊約5%混入。

1:50

第42図 C区第32~34, 36, 37, 39, 49号土坑



第43図 C区第41、42、44~48、50~52号土坑



## SK 53

- 1号 10YR 2/7 黑褐色土主体 ローム中塊(10YR 4/2)5%混入。
- 2号 10YR 4/5 黑色土主体。
- 3号 10YR 2/3 黑褐色土主体 ローム大塊(10YR 3/2)10%混入。
- 4号 10YR 4/4 黑色土主体 暗褐色(10YR 4/2)20%混入。
- 5号 10YR 1/7 黑色土主体 ローム粒5%混入。

## SK 55

- 1号 10YR 2/2 黑褐色土主体 ローム粒10%、ローム小塊10%混入。
- 2号 10YR 3/3 黑褐色土主体 ローム粒30%混入。
- 3号 10YR 2/1 黑色土主体 ローム粒10%、其化物約30%混入。遺物含む。

## SK 63

- 1号 10YR 2/1 黑色土主体 ローム小塊(10YR 4/2)5%混入。
- 2号 10YR 7/8 黄褐色土主体 暗褐色土(10YR 2/1)10%混入。

## SK 64

- 1号 10YR 2/1 黑色土主体 ローム粒5%混入。
- 2号 10YR 4/4 暗褐色土主体 ローム中塊(10YR 3/2)30%混入。
- 3号 10YR 2/1 暗褐色土主体。

## SK 65

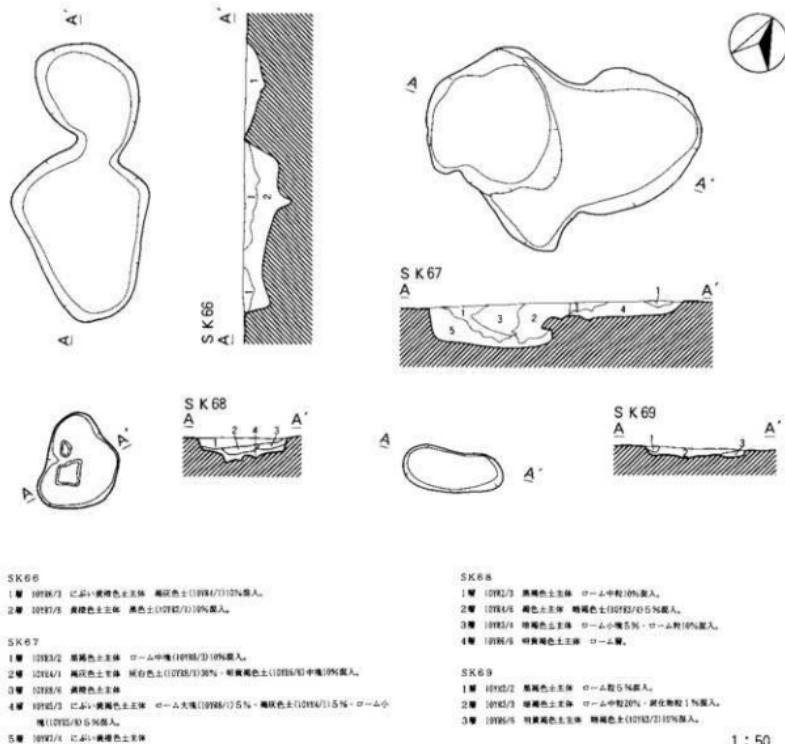
- 1号 10YR 2/2 黑褐色土主体 ローム大塊(10YR 4/2)10%、ローム中塊(10YR 4/2)5%混入。
- 2号 10YR 7/8 明黄褐色土主体 暗褐色土(10YR 4/2)15%混入。

## SK 56

- 1号 10YR 2/2 暗褐色土主体 ローム大塊(10YR 4/2)5%、ローム中塊(10YR 4/2)5%、ローム小塊(10YR 4/2)5%混入。
- 2号 10YR 2/2 暗褐色土主体 ローム中塊(10YR 4/2)5%、ローム小塊(10YR 4/2)5%、暗褐色(10YR 2/1)15%混入。
- 3号 10YR 2/2 暗褐色土主体 ローム中塊(10YR 4/2)10%、暗褐色土(10YR 4/1)中塊5%混入。
- 4号 10YR 2/2 暗褐色土主体 ローム中塊(10YR 4/2)10%、末層5%混入。
- 5号 10YR 2/2 暗褐色土主体 不規則10%、末層(10YR 4/5)中塊10%混入。
- 6号 10YR 2/2 暗褐色土主体 不規則5%混入。
- 7号 10YR 2/2 暗褐色土主体 暗褐色土(10YR 4/2)中塊10%、後邊暗褐色土(10YR 4/6)中塊10%、灰白色土(10YR 4/2)小塊5%混入。
- 8号 10YR 2/2 暗褐色土主体 暗褐色土(10YR 4/2)30%混入。
- 9号 2.10YR 2/2 黑色土主体。
- 10号 10YR 4/4 黄褐色土主体。
- 11号 10YR 2/2 暗褐色土主体 ローム粒(10YR 4/2)5%混入。
- 12号 10YR 2/2 黑色土主体 明黄褐色土(10YR 4/2)20%、暗褐色土(10YR 4/2)10%混入。
- 13号 10YR 2/2 黑褐色土主体。
- 14号 10YR 2/2 黑褐色土主体 暗褐色土(10YR 4/2)5%混入。
- 15号 2.10YR 2/2 暗褐色土主体 明黄褐色土(10YR 4/2)30%、暗褐色土(10YR 4/1)5%混入。
- 16号 10YR 2/2 暗褐色土主体。
- 17号 10YR 2/2 黑褐色土主体 暗褐色土(10YR 4/2)20%混入。
- 18号 10YR 2/2 明黄褐色土主体 明黄褐色土(10YR 4/2)40%混入。
- 19号 10YR 2/2 黑色土主体。
- 20号 10YR 2/2 暗褐色土主体。
- 21号 10YR 2/2 暗褐色土主体 暗褐色土(10YR 4/2)30%混入。

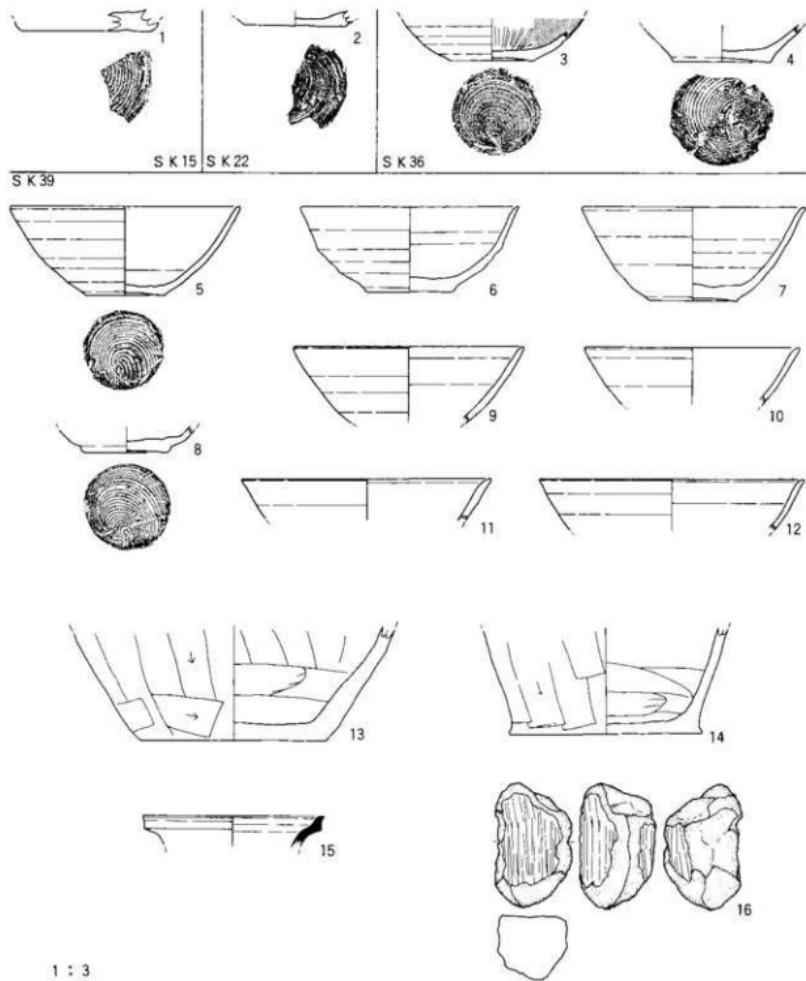
1:50

第44図 C区第53. 55. 56. 63~65号土坑

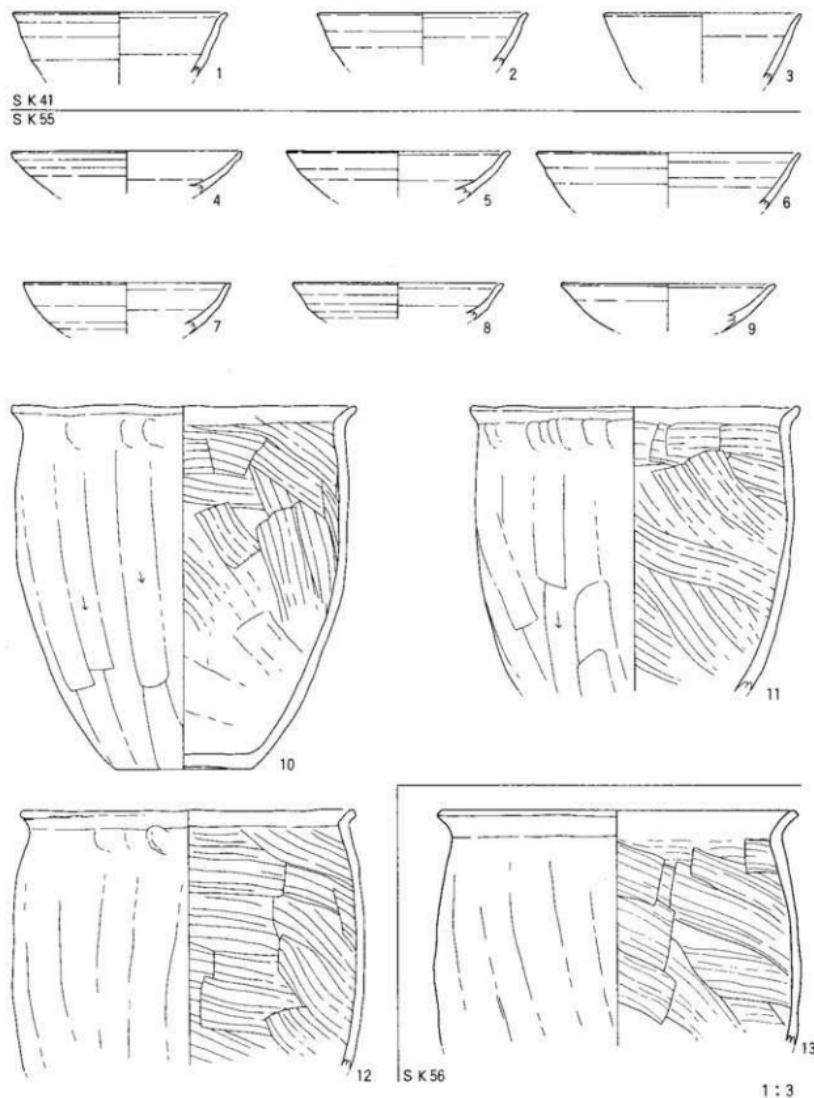


第45図 C区第66~69号土坑

1:50



第46図 C区土坑 (SK 15, 22, 36, 39) 出土遺物



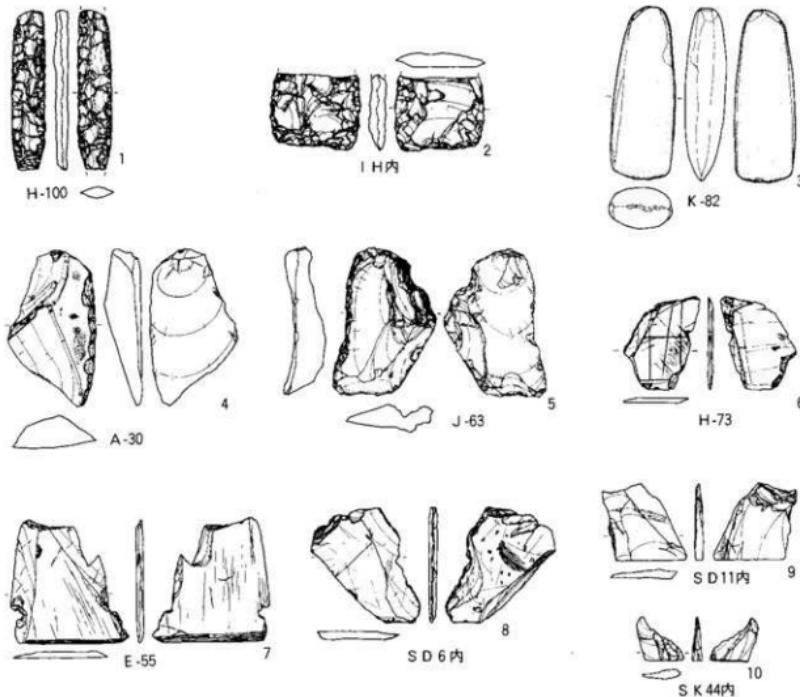
第47図 C区土坑 (SK 41, 55, 56) 出土遺物

### 第3節 繩文時代の遺構と遺物

C区の縄文時代は石器が出土したのみである。定型的な石器が少なく、土器や遺構も確認されていないので、それぞれの石器の帰属時期を推定するのは困難であるが、1は形態的に草創期のものである可能性も考えられる。6~10は不明な点が多く、他時期のものである可能性も否定できない。以下個々について概略を記す。

1は両面加工の柳葉形の尖頭器である。両端は折れにより欠損しているが、基部を作出しているのがわかる。珪質頁岩製。2は両面加工の打製石斧で基部側を大きく欠損している。珪質頁岩製。3は全面研磨された磨製石斧で、刃部に使用に伴うものと思われる刃こぼれが観察される。砂岩製。4、5は削器で、共に縦長剥片を素材とし、一側縁に二次加工が施されている。珪質頁岩製。6~10は方向性を持った擦痕が認められるので、持ち砥石または磨製石斧の擦り切り具と思われるが不明確である。全て粘板岩製。

(川口潤)

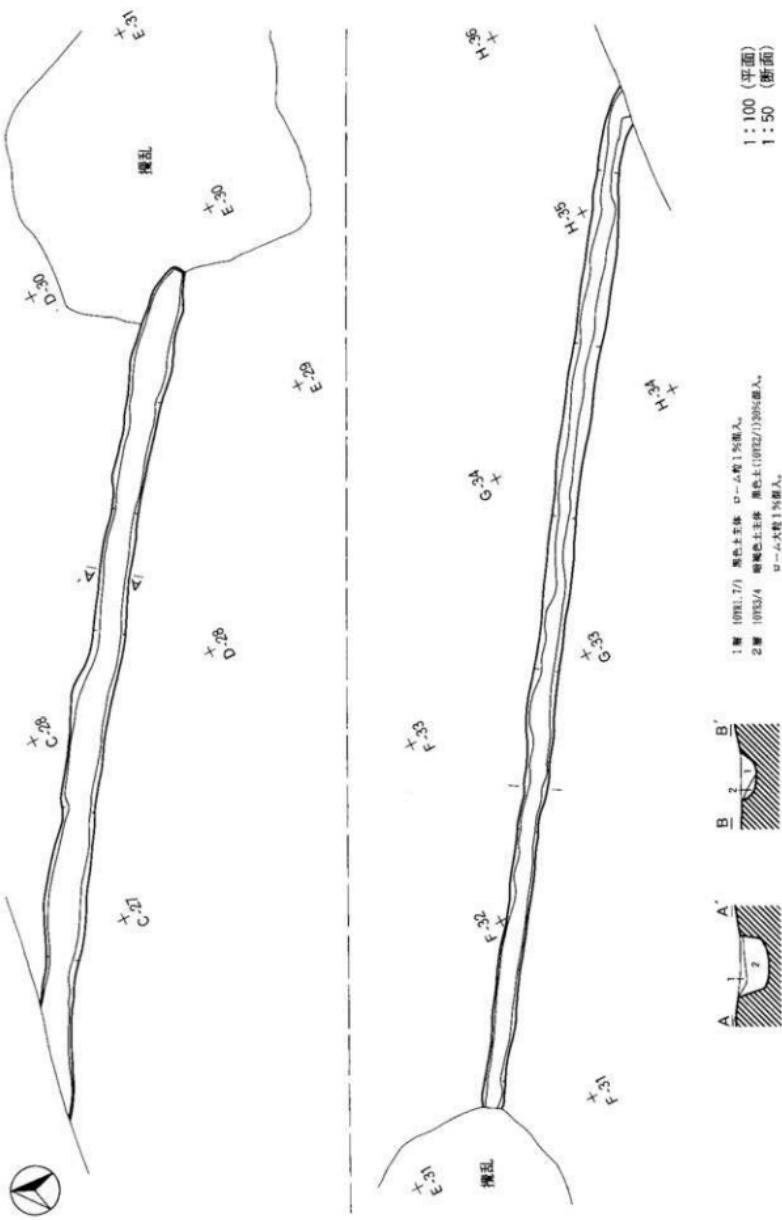


第48図 C区遺構外出土石器

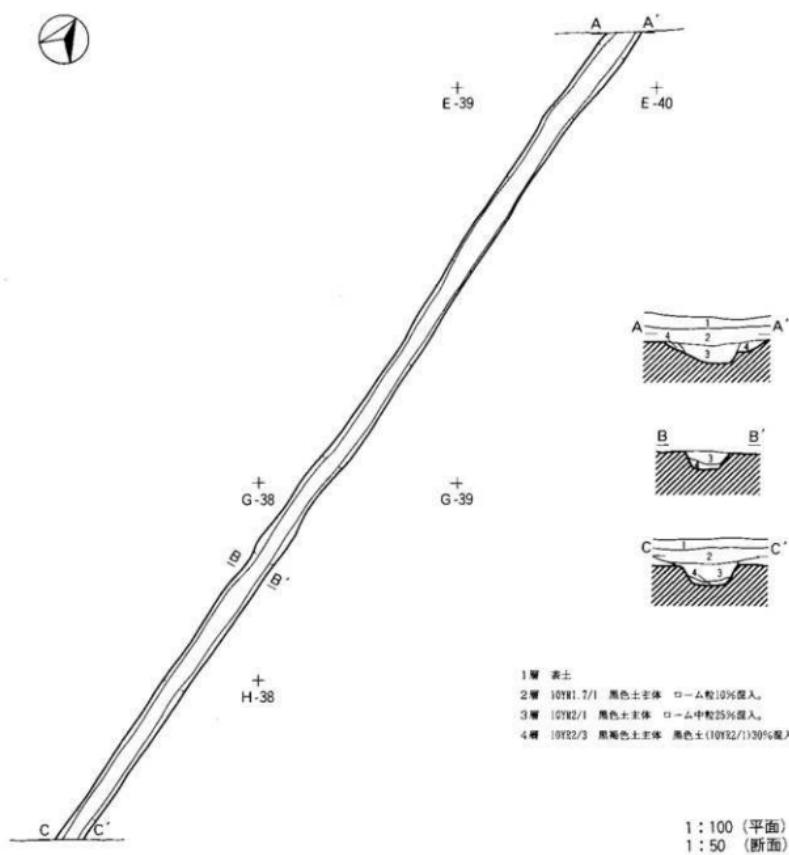
1 : 3



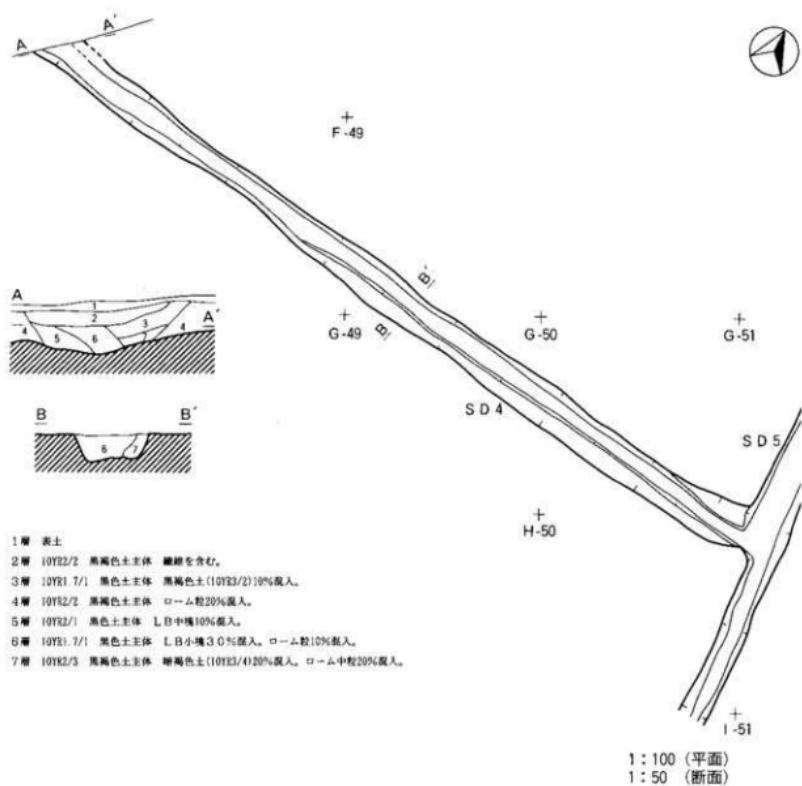




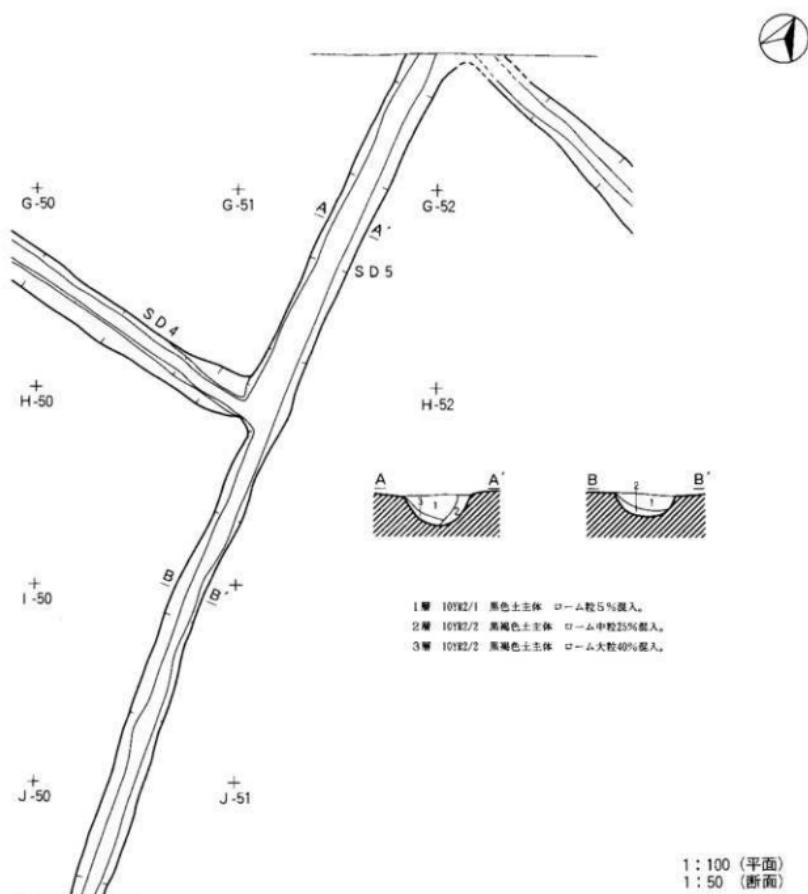
第49図 C区第1号溝跡



第50図 C区第3号溝跡



第51図 C区第4号溝跡



第52図 C区第5号溝跡